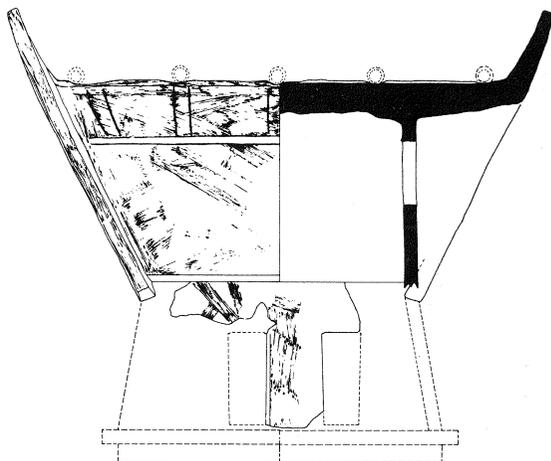


四條畷市埋蔵文化財包蔵地調査概報 2

岡山南遺跡発掘調査概要・I

四條畷市大字岡山所在



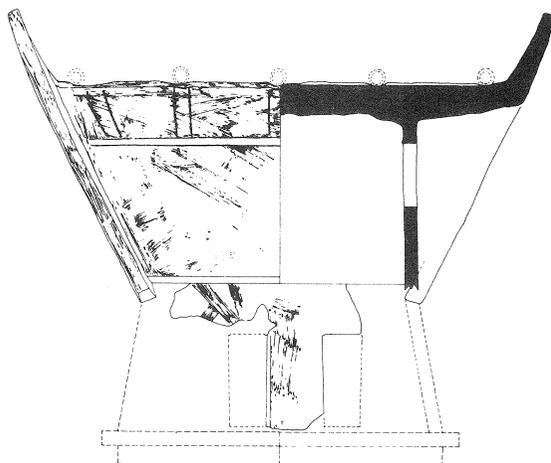
1976・12

四條畷市教育委員会

四條畷市埋蔵文化財包蔵地調査概報2

岡山南遺跡発掘調査概要・I

四條畷市大字岡山所在



1976・12

四條畷市教育委員会

は し が き

この報告書は、府道枚方・富田林・泉佐野線新設バイパス建設工事にもな
って、過日行いました岡山南遺跡緊急発掘調査の概要であります。

バイパス予定線は、忍ヶ岡丘陵の中間部を南北に横ぎるため、以前から何等か
の遺物、遺構等が検出されるのではないかと予想されていた地域であります。
はたして調査の結果、北側丘陵、南側丘陵からそれぞれ以下に報告申しあげる
遺物、遺構が発見されました。

第2次調査の折に、古墳時代のものと思われる竪穴式住居跡が検出できたこと、
また第3次調査では、大溝の中から家形埴輪などの形象埴輪が出土したこと、
また、この場所が昔から べつく(別宮)とよばれていた場所でもあり、これを
裏付けるように平安時代のものと思われる柱穴を多数検出することができたこ
となどは、特筆することのできる調査結果でありましょう。

一次から三次に至ります調査の間、進行・運営にあたって、終始ご理解ご協
力をいただきました大阪府枚方土木事務所をはじめ数多くの方々に対し深く感
謝を申し上げます。

四條畷市教育委員会

教育長 櫻井敬夫

例 言

1. 本書は、昭和50年10月～昭和51年10月に四條畷市教育委員会が府道枚方・富田林・泉佐野線新設バイパス建設に先立ち、大阪府枚方土木事務所より委託を受けて実施した、四條畷市岡山238-1他に所在する岡山南遺跡発掘調査の概要報告書である。
2. 調査に要した費用（総額 4,200,000円）は全額大阪府枚方土木事務所の負担によるものである。
3. 発掘調査については、教育委員会社会教育課技師 野島 稔、枚方市文化財研究所調査会調査員 桑原武志が現場を担当し、補助員として、藤原忠雄、花田照也、多田羅正彦、松井忠雄、久保田泰幸、小林克重があたった。出土遺物の整理、実測などについては、野島 稔、藤原忠雄、花田照也、多田羅正彦、松井忠雄、久保田泰幸、永井蓉子、阪本富美子、木本倫江、川本三智子、宮崎智子、山本要子、阪井美恵、福島博子、谷口晴代があたった。
4. 本書の作成については、野島 稔、藤原忠雄、花田照也が執筆し、写真撮影は花田照也が行なった。
5. 発掘調査の進行、報告書作成などについて、瀬川芳則、村川行弘、平川清式、下村晴文、鷓飼満男、宇治田和生の各氏に指導助言を得た。ここに記して感謝の意を表する。
6. 発掘調査の進行については、大阪府枚方土木事務所、枚方市文化財研究調査会、調査現場での機器の調達については、中村組の全面的な協力を得た。

本文目次

はしがき

例言

第 1 章 調査に至る経過 1 頁

第 2 章 遺跡の位置と環境 1 頁

第 3 章 調査概要報告

第 1 次発掘調査 2 頁

第 2 次発掘調査 3 頁

第 3 次発掘調査 4 頁

第 4 章 遺物 7 頁

第 5 章 まとめ 34 頁

岡山南遺跡発掘調査概要

第1章 調査に至る経過

四條畷市岡山に所在する岡山南遺跡は、府道枚方・富田林・泉佐野線新設バイパス建設工事中に多量の土器が出土したことにより遺跡の存在が周知されるようになった。

大阪府土木部、大阪府教育委員会、四條畷市教育委員会の三者で協議がなされ、四條畷市教育委員会が昭和50年10月15日から11月5日まで、遺跡の範囲、遺構の有無、遺跡の時期等を正確に把握するための確認調査（第1次発掘調査）を行なった。

その結果、道路巾15m、道路長90mに古墳時代～鎌倉時代に至る複合遺跡のあることが確認された。また、既設バイパスとの結合されている北側丘陵にも確認調査を行ったところ、南側丘陵と同じ時代の集落の遺構が検出された。

この第一次発掘調査の結果を大阪府教育委員会を通じ大阪府土木部に連絡がなされた。その結果にもとづき、大阪府土木部、大阪府枚方土木事務所、大阪府教育委員会、四條畷市教育委員会と協議をした結果、府道枚方・富田林・泉佐野線新設バイパス建設に先立ち本確調査を行なうことになった。

南側丘陵の第2次発掘調査は昭和51年3月2日から4月16日まで、北側丘陵の第3次発掘調査は昭和51年7月2日から10月19日までそれぞれ実施した。

第2章 遺跡の位置と環境

花崗岩をその主体とする生駒山系は、飯盛山より北北東に向きをかえ星田へと伸びているが、その西側斜面によりそうように洪積期の丘陵が寝屋川・交野へとひろがっている。

東の山々より流れる水は、讃良川、清滝川、権現川等の水流となり、いずれもこの丘陵を横ぎり、東西に谷を形成している。これらの谷によって、この丘陵は北より忍ヶ岡丘陵、清滝丘陵、南野丘陵に分けることができる。

また本市西南部の沖積地域は、江戸時代中期に大和川が堺につけかえされるまでは、広々

とした深野池の北端部に属していた。したがって、生駒山系とこの深野池との間にある前記の丘陵地は、原始より古代、中世そして現代に至るまで私どもの祖先の生活の場として数多くの遺跡、遺物を埋蔵している場所である。

このたび調査を行った岡山南遺跡は、本市北部の忍ヶ岡丘陵に属し、国鉄片町線忍ヶ丘駅より東約200mの地点から南へ約300mに亘る地域である。

忍ヶ丘駅より北西約200mの讃良川畔には、更良岡山遺跡があり、縄文後・晩期を主体とし、その外に旧石器も出土している。また古代寺院の讃良寺跡もこれに複合している。忍ヶ岡丘陵西端の忍陵神社・大正寺の境内は、前期の忍ヶ岡古墳が所在し、神社拝殿横には竪穴の石室が保存されている。また片町線複線化に伴う調査によって、北より坪井遺跡・忍ヶ丘駅前遺跡、南山下遺跡、奈良井遺跡、中野遺跡の各遺跡が発見され、いずれも古墳時代から近世に至る遺構、遺物を検出している。さらに岡山南遺跡から谷をこえた清滝丘陵には、白鳳時代初頭に創建されたと推定される旧正法寺跡が所在し、その南、清滝川を越えたところには、古墳時代から中世に亘る四條畷小学校遺跡がある。

第3章 調査概要報告

1. 第1次発掘調査

第1次発掘調査では7ヶ所のトレンチを設定した。

<F 06 地区>

2m×2mのトレンチである。第1層耕土、第2層床土、第3層褐色砂質土となっている。第4層からの遺物としては、土師器、須恵器、瓦器、土師質皿とともに馬の歯が出土している。

<F 08 地区>

2m×2mのトレンチである。第3層褐色砂質土、第4層褐色砂層となっている。第3層からの遺物としては、瓦器、土師質皿、第4層からは、土師器、須恵器が出土した。

<F 14 地区>

2m×2mのトレンチである。第1層表土、第2層黄褐色砂質土、第3層褐色砂質土となっている。第3層からの遺物としては、土師器、須恵器が出土し、遺構の確認はできなかった。

<F 14 地区>

2 m×2 mのトレンチである。第1層表土、第2層黄褐色砂質土、第3層褐色砂質土、第4層淡褐色砂質土となっている。第3層以下の遺物としては、土師器、須恵器が出土した。このトレンチからは、溝状遺構及びピットが検出され、ピット内から土師器が出土している。

〈F 19～G 19 地区〉

東西に長さ16m、幅2mのトレンチ（第1トレンチ）設定。第1層盛土、第2層旧耕土、第3層褐色砂質土となっている。その下層は黄褐色粘土層の地山である。トレンチの西端にピットが多数検出し、ピットの範囲を調べるために第2トレンチを設定した。

〈F 17～F 19 地区〉

南北に長さ26m、幅2mのトレンチ（第2トレンチ）設定。第1トレンチと同一層をなしトレンチ全域にピットが検出した。ピット内から甕2点が出土し、他のピット内から土師器須恵器が出土した。

〈F 20 地区〉

東西に長さ7m、幅2mのトレンチ設定。第1層盛土、第2層旧耕土、第3層褐色砂質土となっている。第3層からの遺物としては、土師器、須恵器、瓦器、土師質皿、砥石などの土器、石器が出土した。トレンチの中央部に幅約1.5mの溝状遺構を検出した。

2. 第2次発掘調査

第2次発掘調査地区は、第1次発掘調査の結果にもとづき、F・G 13～22地区の全面発掘調査である。F・G 17～21地区には府道新設バイパス工事のために盛土が約0.6m～1.7mがあり、その下層には旧耕土、床土、褐色砂質土の層位になっている。これらの層を除去、削平を行った結果、ピット群、竪穴式住居跡、溝状遺構が検出した。

G 16地区の溝状遺構を境にG 14～G 15地区のピット群、F 17～F 19地区のピット群に大分することができる。

〈ピット群〉

F 17、F 18、F 19地区全域にピットが確認され、ピットの径は大きささまざまである。出土遺物としては、Pit No. 6で甕、Pit No. 7で甗、Pit No. 22で甕2点、Pit No. 49で甕2点がそれぞれ完形で出土した。

〈建物跡〉

F 18地区に検出した。桁行2間、梁行2間の角柱の掘立柱の建物であり、桁行2.326m、梁行2.326mを測り、これは桁行80尺、梁行80尺にあたる。他の角柱の掘立柱の建物については道路外に続くため現在のところ明らかではない。

〈溝状遺構〉

G16地区に検出した幅2m、深さ60cmの規模をもつものである。この遺構は、西行にして調査地区外の西側谷間へ落ち込む部分で削られている。東から北への水流があったものとみられ、溝内の堆積は黄褐色砂礫土層で須恵器が多量に出土した。

〈1号竪穴式住居跡〉

F20地区西端に於いて、黄褐色粘質土の面を掘り下げて作られている。住居跡の上面は中世に大巾に削られているようであるため、完全な形で検出することはできなかった。規模は東南辺約7mで、北東辺は約5mまで測れるのみで全体の大きさは不明である。床面は東側が高く、西に行くにしたがって低くなっており、比高差は約20cmである。床面から現存する壁の立ち上がりは、東南辺で20cm、北東辺で15cmを測る。

全体の形は、隅丸方形プランの竪穴式住居であり、推定では約8m四方の竪穴式住居跡であろう。

床面には大小7個のピットが掘られており、そのうちの1個からは、炭及び焼土が検出され炉跡と考えられる。又、北側周溝壁に掘られている大形ピットがあり、規模は北東辺約50cm、南東辺約50cm、南西辺約30cm、西北辺約45cmのピットである。床面より約30cm下ったところに、巾20cmの段を設け、さらに20cmほど深くなっている。中より土師器、須恵器が出土することから貯蔵穴の可能性がある。

3. 第3次発掘調査

第3次発掘調査地区は、第2次発掘調査地区と、巾約30mの東西に流れる谷を挟んで北側に位置している。台状の丘陵地であり、特に調査地区内のF06、G06地区は最近に至るまで水田が耕作されていた平坦な場所である。

表土、旧耕土、床土、及び褐色砂質土の堆積があり、これらを除去、削平した後、溜池状遺構、溝状遺構（近世）、ピット群、落ち込み状遺構（中世）、大溝遺構、井戸状遺構、土壇状遺構等が検出された。

〈溝状遺構〉

検出された遺構は、F05地区の一部、F06、G06地区全域、G07地区の一部であった。南北に走行する溝5条、東西に走行する溝5条が確認され各溝は互いに直交し連絡されている。これらの溝のうちで地区内東端において南北に走行する一条は長さ約29.5m、巾60～80cm、深さ9～16cmの規模をもち、溝状遺構の主流と考えられる。他の溝は、長さ4～15m、巾20～50cm、深さ2～10cmの規模であった。

各溝のうちで末端及び側辺がF 05、G 05地区に検出された溜池状遺構に隣接するものがあり、さらに全ての溝によって構成される区画や、地形の緩傾斜等を条件にすれば、近世に於ける水田耕作地のために使用された配水用の溝状遺構であると考えられる。なお、これら溝状遺構内には、土師質、陶磁器の破片が含まれていた。

〈溜池状遺構〉

前記溝状遺構が検出された地区の北側に隣接するF 05、G 05地区は今回の調査の北限であったが、この地区では遺構が既設道路部分に続くことが確認されている。

この遺構の長径は検出された部分で12m、深さは最深部で80cm、底部は殆んど平坦な隅丸方形を呈している。

遺構内堆積土は上部を除いて殆んどが砂粒層であり、遺物は植物性遺物、土師器、須恵器陶磁器の破片が含まれていた。

遺構の位置、形状からみてこの遺構は、前述の溝状遺構と共に耕作地の給水用に使用されたと考えられる。なお、出土遺物からみて江戸時代頃に使用されたものであろう。

〈落ち込み状遺構〉

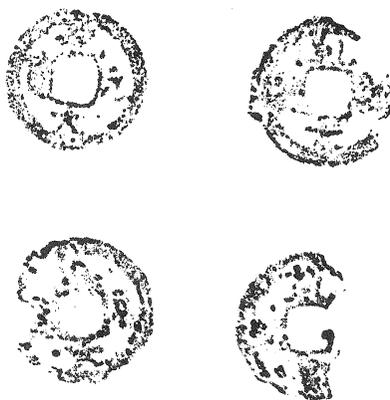
G 08地区南端に、東西巾5m、南北巾15mの落ち込み状遺構が検出された。

検出層面より急傾斜で約50cmの深さまで落ち込み底部は平坦となり、調査地区内南側にあたる谷へ下る斜面によって切断されていた。底部平坦地上に、羽釜の破片が出土しており、また内部堆積土中からは、土師質、須恵質、瓦器等の破片が出土した。

〈ピット群〉

F 05、F 06、G 06、F 07、G 07地区に多数のピットが確認された。

ピットの径は、20～40cmであり、深さは20～50cmであった。また重複したピットも確認した。これらのピット群からの出土遺物には、銅銭「乾元大宝」(958年)をはじめ、瓦器碗、燈明



「乾元大宝」(958年) 皇朝十二銭

皿、土釜、埴とともに、須恵器、土師器等が出土した。

また、柱根の腐朽した残欠部や、根石等を残すピットも数ヶ所認められた。

〈土 壙 状 遺 構〉

G06地区に長径1.2m、短径1.0m、深さ40cmの偏楕円形の遺構が1ヶ所検出された。遺構内堆積土の上層部は、検出面直上に堆積している包含層と同質であり、掘り下げるに従って土師器甕、高坏、片口大鉢、須恵器坏が出土した。この遺構内部西側に、前述の中世ピット群のうち1ヶが掘り込まれ、ピットの掘られた時期に遺構の上部が破壊されている。

〈井 戸 1〉

F07地区に、後述する大溝A内の弯曲部北側肩の部分に接して、素掘りの井戸状遺構を1基検出した。地表部外径は1.5m、底部内径0.8m、深さは1.2m、底部は平坦である。

地山を利用して素掘りされており、井戸内堆積土は殆んどが黄褐色砂質土であった。出土遺物は、土師器、須恵器の破片とともに須恵器細頸壺が出土した。

〈大 溝 A〉

F08、G08地区に大溝Aが検出された。全長約13m、巾約2m、深さは約25～90cmであった。

G08地区東端部より発して西行し、前述の井戸状遺構南側に接し、そこから南行して調査地区外の南側谷へ落ち込む部分で谷斜面によって切断されている。走行過程は蛇行であり、東から南への水流があったものと見られる。溝内堆積土は、小礫を含む砂質土で土師器、須恵器の土器が多数出土した。

〈大 溝 B〉

G07地区東端より発し、今回の調査地区北限のF04地区まで達する延長約35mに及ぶ大溝Bが検出された。巾は地表面で約2～2.5m、底部では約0.6～1.0m、深さ約1.0～1.2mであり、急な傾斜によってつくられたU字溝である。

溝内水流は地形と高度差から考えて、G07地区よりF04地区へ向って流れていたものと考えられる。

流路はG07地区東端より西行し、F07地区に入る地点でほぼ直角に近い角度で北へ向い、Fライン沿いにF04地区まで北行している。

なおこの流路は、今回調査終了後に行なわれた、大阪ガスの天然ガス管理設工事に伴う継続地区の調査によってF04地区内で更に西行していることが判明した。

出土遺物としては、円筒埴輪、切妻造家形埴輪、朝顔形埴輪、蓋埴輪、動物埴輪、土師器長頸壺、甕、須恵器壺、坏身、坏蓋等の土器とともに、縄文時代の石鏃、尖頭器、磨製石斧の石器や、加工木製品等が多数出土した。

第4章 遺物

岡山南遺跡の発掘調査で出土した遺物数量は、およそコンテナパットで約120杯である。種類としては、縄文式土器、石器、土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、陶磁器、木製品、柱、銅銭等があり、時代的には縄文時代晩期、古墳時代中期～後期及び平安時代～江戸時代に所属するものが多数出土した。ここではそれらの内ごく一部の遺物を表で紹介するにとどめる。

小形丸底土器

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考（出土地・層位）
1	口径 13.0 胴径 16.1 器高 15.8	（口縁部）「く」の字に外折し、直線的に外上方へのびる単純な口縁部だが部分的に直立する。端部は丸くとじる。 （胴部）球形。丸底で最大径は中位にある。外面はヘラで磨かれ、内面は丁寧な指整形がなされている。	淡茶褐色で断面は黒褐色。 0.1～0.3の砂粒を含む。	第1次調査第3トレンチ内 Pit No.1。 褐色砂質土層。
2	胴径 13.1 残高 11.1	（口縁部）口縁部は欠失する。 （胴部）最大径を中位にもつ球形・丸底ではあるが、底部は平たい感じがする。口縁基部をナデ調整しており、外面上半は縦方向、下半は乱方向の刷毛目を施こしている。内面は乱方向にヘラでナデているが粘土紐接合痕がのこる。	淡黄褐色で底部に4×3の黒色斑。 0.1～0.5の砂粒を含む。	第1次調査第3トレンチ内 Pit No.1。 褐色砂質土層。
3	口径 12.0 胴部 15.2 器高 14.7	（口縁部）基部でわずかに外湾し、直線的に外上方へのびる口縁部は端部で丸くとじる。 （胴部）最大径を中位やや上にもつ肩のはった胴部で底は尖がり気味である。摩耗のため調整ははっきりしていないが、縦方向の刷毛目が部分的にかすかに残っている。	赤っぽい黄褐色で7×7.5のスス付着。 0.1～0.3の砂粒を含む。	第2次調査にて出土

4	口径 12.6 胴径 14.8 器高 13.3	(口縁部) 基部で外弯し、外上方へひらく短い口縁部で、端部は薄く丸くとじる。内外面ともにナデ調整が施されている。 (胴部) 肩部に最大径をもつ球形で底は尖がり気味である。上半は縦方向、下半は乱方向の刷毛目が施されている。	赤っぽい黄褐色で内面は黄褐色。 0.1~0.2の砂粒を含む。	第2次調査にて出土
5	口径 11.0 胴径 12.2 器高 11.0	(口縁部) 「く」の字に外折し、内反ぎみに外上方へのびる長い口縁部は端部で丸くとじる。 (胴部) 胴部の中位に最大径を有し、尖がり気味の底部をもつ。摩耗がひどく調整は不明である。	赤褐色。 0.1~0.5の砂粒を多く含む。	第2次調査にて出土
6	口径 10.3 胴径 13.7 器高 11.8	(口縁部) 基部でかすかに外弯し直線的に外上方へのびるが部分的に直立する。端部は丸くとじる。 (胴部) 肩部に最大径を有し、尖がり気味の底部をもつ。摩耗がひどく調整は不明である。	暗茶褐色。 0.1~0.3の砂粒を含み軟質である。	第2次調査にて出土
7	胴径 12.7 残高 10.3	(口縁部) 欠失する。 (胴部) 扁球形の胴部で最大径を中位やや上にもち底部は尖がっている。摩耗のため調整は不明である。	淡茶褐色で底部は赤っぽく内面は黄褐色 0.1~0.5の砂粒を含む。	第2次調査にて出土
8	口径 11.8 胴径 14.9 器高 15.1	(口縁部) 外反ぎみに外上方へのびる口縁部で端部は丸くとじる。内外面ともにナデ調整が施されている。 (胴部) 最大径を中位にもつ球形・丸底の胴部は上半は縦方向下半は乱方向の刷毛目が施されるが摩耗のため消えかけており内面は部分的にナデ調整が施されている。	淡黄褐色で胴部に8×9の黒色斑。 0.1~0.2の砂粒を少量含む。	第2次調査にて出土

隰

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考（出土地・層位）
9	口径 8.1 胴径 13.0 器高 12.5	（口縁部） 外上方へ外反したのち、内湾ぎみに立ちあがり端部へいたる。外反した部分と立ちあがる部分の境に凹線を施し端部は平らな面をもつ。 （胴部） 肩のはった胴部で尖がり気味の底部をもつ。中央部に1.5の円孔を穿つ。底部外面は未調整だが他は回転ナデ調整を施こしている。	外・灰色 内・灰青色 精良な粘土。 焼成堅緻。	第2次調査にて出土

小形丸底土器

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考（出土地・層位）
10	口径 9.7 胴径 12.1 器高 10.5 口縁部高 2.7 胴部高 7.8	（口縁部） 内上方に立ちあがった後、外上方へひらき端部で上方へのびる。内外面ともにナデ調整が施されているが、外面においては刷毛目のごく少し残っている。 （胴部） 最大径を中位に有し扁球形を呈し尖がりぎみの丸底をもつ。外面は縦方向の刷毛目で最大径部では粘土を塗り付け刷毛で調整している。内面はヘラ削りの後ナデ調整を施す。口縁部と胴部の接合痕が残る。	淡黄褐色。 最大径部の下に5×6の黒色斑。砂粒を少し含むが精良な粘土。焼成も良好。	G 07大溝B内。 灰色砂層。
11	口径 9.8 胴径 12.5 器高 11.2 口縁部高 3.2 胴部高 8.0	（口縁部） 基部でわずかに外湾し、外反ぎみに外上方へのび端部付近でたち上がる。外面はナデ調整が施されるが基部の刷毛目は残っている。内面はヘラ削りの後ナデ調整が施されているが胴部との接合痕が残る。	全体に灰黄褐色で内面はやや灰色気味で肩から中位にかけて5×7の黒色斑。 0.1~0.2の砂	F 05大溝B内。 灰色砂層。

		(胴部) 最大径が中位に位置する球形・丸底。肩から中位までは縦方向の刷毛目、その下は乱方向で刷毛原体は異なる。数ヶ所に指圧痕を残す。内面はヘラ削りの後ナデ調整が施されているが指圧痕、接合痕が残っている。	粒を含む。	
12	口径 10.3 胴径 12.8 器高 11.0 口縁部高 3.0 胴部高 8.0	(口縁部) 基部で外弯し肥厚してナデのために内側より薄くなった端部へ至る。内外面ともにナデ調整が施されている。 (胴部) 最大径部を中位にもつ球形で丸底。外面の肩より中位までは縦方向、その下は乱方向の刷毛目を施こし、内面には2条の粘土紐接合痕を残す。	赤褐色。肩より下に6×8の黒色斑。 0.1~0.3の砂粒を含む軟質の土器。	F 06大溝B内。 淡灰色砂層。
13	口径 9.5 胴径 12.0 器高 11.4 口縁部高 2.4 胴部高 9.0	(口縁部) 基部でゆるく外弯し外上方へひらく口縁部は口径が長径9.5、短径8.7の楕円形を呈す。内外面ともに丁寧なナデ調整が施されている。 (胴部) 球形・丸底で最大径は中位に位置する。最大径部より上は縦方向、下は乱方向に細かい刷毛目を施こし、内面はヘラナデを行なっている。	全体に暗茶褐色を呈し口縁部に2×2の黒色斑。少量の砂粒を含む精良な粘土で丁寧な作りである。	F 05大溝B内。 白褐色砂層。
14	口径 10.8 胴径 12.3 器高 11.5 口縁部高 2.7 胴部高 8.8	(口縁部) 外上方へひらく口縁部は基部で外弯し外反ぎみに端部へいたる。内外面ともにナデ調整が施されている。 (胴部) 最大径を中位に有する球形・丸底。外面は全体に細かい刷毛目が乱方向に施され、内面はヘラ削りの後ナデ調整が施され指圧痕を認める。	茶褐色で内面はやや灰色っぽい。 0.1程度の砂粒を少し含む精良な粘土。	F 05大溝内。 灰色砂層。

15	口径 10.4 胴径 12.6 器高 11.6 口縁部高 3.0 胴部高 8.6	(口縁部) 基部でゆるやかに外弯し外上方へ短くのびる。内外面ともにナデ調整が施され、肩との境にかすかな段をもつ。 (胴部) 最大径を中位より上にもち球形・丸底を呈す。手づくねの底部との境に部分的な段をもつ。外面は縦方向の粗い刷毛目で手づくねの底部はヘラ痕がかすかに残る。内面はヘラ削りの後ナデ調整が施されているがヘラ痕と粘土紐接合痕4条が残っている。	黄褐色を呈し最大径部から底部にかけて加熱による7×6の淡赤色斑。0.1程度の砂粒を含む精良な粘土。	F 05大溝B内。 灰色砂層。
16	口径 13.1 胴径 15.1 器高 13.9 口縁部高 3.0 胴部高10.9	(口縁部) 単純に外上方にひらく口縁部。内外面ともにナデ調整が施されている。 (胴部) 最大径が中位に位置する球形で手づくねの底部との境に段をもつ。外面は縦方向の刷毛目だが中位以下はやや乱方向となる。内面はヘラナデ調整が施されている。	全体に黄褐色を呈すが¼ほど赤褐色を呈し、肩から下へ9×6の黒色斑。0.1前後の砂粒を含みやや軟質。	F 05大溝B内。 灰色砂層。
17	口径 11.1 胴径 13.8 器高 12.9 口縁部高 2.4 胴部高10.5	(口縁部) 基部で外弯し外上方へ肥厚して開き端部で薄くなる。内外面ともにナデ調整が施されている。 (胴部) 最大径を上位に有する肩の張った器形で手づくねの底部との間に段をもつ丸底。外面の肩部は左上から右下への刷毛目で一部ヘラで消され、中位以下は縦方向の刷毛目だがやや乱方向ぎみの刷毛目が施されている。内面はヘラ削りの後ナデ調整が施されているが2条の粘土紐接合痕が残っている。	赤茶褐色。0.1~0.3の砂粒を含む。	G 06大溝B内。 白褐色砂層。

18	口径 12.0 胴径 11.9 器高 9.9 口縁部高 2.5 胴部高 7.4	(口縁部) 単純に外反し端部で丸くとじる口縁部は内外面ともにナデ調整が施されている。 (胴部) 最大径は中位に位置するが口縁基部の径が大きいのでゆるやかな丸味を呈し、底部は平たい面をもつ。外面は縦方向の刷毛目であるが、刷毛原体先端による刺突や粘土くず付着や指圧痕のために消えた部分が多い。底部の平たい面はほとんど調整されていない。内面はヘラ削りのあと粗いナデ調整が施されているが3条の粘土紐接合痕が残る。	淡灰褐色で内面はやや暗く肩から底部にかけて10×12の黒色斑。 0.1程度の砂粒を含む精良な粘土。	F 05大溝B内。 灰色砂層。
19	口径 10.4 胴径 13.9 器高 12.2 口縁部高 3.0 胴部高 9.2	(口縁部) 直立する口縁部は基部で外弯し外へ肥厚して端部へ至る。内外面ともにナデ調整が施されているが胎土が粗いせいもあって雑な感じがする。 (胴部) 最大径を中位よりやや下にもつ球形だが雑な整形のため歪である。外面は最大径部までは縦方向、下部は乱方向の刷毛目で肩部まではナデ調整により部分的な刷毛目を残して消されている。内面はヘラ削りの後ナデ調整がなされている。	茶褐色で口縁部から肩にかけての一部は暗灰褐色、最大径以下に9×6の黒色斑 0.1程度の砂粒を多く含むやや軟質。	F 05大溝B内。 灰色砂層。
20	口径 11.3 胴径 12.3 器高 11.9 口縁部高 2.1 胴部高 9.8	(口縁部) 単純に外反する口縁部は端部にむかって器厚が薄くなる。整形は粗雑で刷毛目の上をナデ調整が施されているが消しきれず部分的に刷毛目が残る (胴部) 最大径を中に有する球形の胴部は、整形が粗雑なため粘土紐の形を4段残す。肩までは縦方向、その下は乱方向の粗	灰黄褐色。胴部に5×5の黒色斑。 0.1~0.3の砂粒を含む。	F 05大溝B内。 灰色砂層。

20		<p>雑な刷毛目で、底部付近においては粘土紐の凸部で消えている。内面はヘラ削りが行なわれているが粘土紐接合痕、ヘラ痕が残っている。</p>		
21	<p>口径 10.8 胴径 13.0 器高 10.1 口縁部高 2.7 胴部高 7.4</p>	<p>(口縁部) 外上方にのびる単純な形で端部は内側より薄くなる。外面はナデ調整が施されているが基部に少し刷毛目が残り、内面は横方向の刷毛目の上をナデている。胴部との間に接合痕を残す。</p> <p>(胴部) 最大径をほぼ中位に有する扁球形。肩までは縦方向、その下は乱方向の刷毛目を施す。内面には2条の粘土紐接合痕とヘラ痕を残す。</p>	<p>赤っぽい黄褐色。 0.1~0.3の砂粒を含む。</p>	<p>F 05大溝B内。 白褐色砂層。</p>
22	<p>口径 10.8 胴径 12.5 器高 11.6 口縁部高 3.4 胴部高 8.2</p>	<p>(口縁部) 基部で外弯したのち外上方へのびて端部は丸くとじる。内外面ともにナデ調整が施されている。</p> <p>(胴部) 球形・丸底で最大径は中位に位置する。外面は細かい刷毛で縦方向に調整され、内面は肩部に指圧痕を残すが全体にヘラで丁寧調整されている。</p>	<p>全体に黄茶褐色。胴部中央に7×6の黒色斑、その周囲は熱によって淡黄褐色に変色。砂粒を含むが精良な粘土。</p>	<p>F 05大溝B内。 灰色砂層。</p>
23	<p>口径 12.6 胴径 15.2 器高 14.3 口縁部高 3.0 胴部高 9.3</p>	<p>(口縁部) 直立し端部で薄くなってとじる口縁部は内外面ともにナデ調整が施されている。</p> <p>(胴部) 最大径を中位に有し肩の張らない球形丸底。外面は乱方向の刷毛目で底部に4ヶ所棒による圧痕がある。内面はヘラ削りの後ナデているが中位以下はヘラ削りのみで粘土紐接合痕をくっきりと残す。</p>	<p>外面は黄褐色で内面はやや灰色っぽい黄褐色。 0.1~0.2の砂粒を含む。</p>	<p>F 05大溝B内。 灰色砂層。</p>

24	口径 13.5 胴径 13.3 器高 12.6 口縁部高 2.7 胴部高 9.9	<p>(口縁部) 単純に外上方へのびる部分と直立する部分とがあり端部で外へ肥厚する。内外面ともに刷毛目の上をナデ調整しているが外面では縦方向、内面では横方向の刷毛目が残る。</p> <p>(胴部) 肩は張らず垂下し底部で丸くなる。粘土紐接合の段をもつ。外面は縦方向の粗い刷毛目、内面はへら削り。器壁は0.8と厚く粗製の感じである。</p>	茶褐色。最大径部以下に5×6の黒色斑。砂粒を多く含む軟質の土器。	G 07大溝B内。 灰色砂層。
25	口径 11.1 胴径 12.4 器高 10.1 口縁部高 2.1 胴部高 8.0	<p>(口縁部) 接合痕を残した基部から内反ぎみに外上方へのび端部へ至る。外面はナデ調整が施されているが粘土紐接合痕を残し、内面はナデ調整が施されている。</p> <p>(胴部) 最大径を中位に有し底部は平らな面をもつ。下$\frac{1}{3}$の手づくねの部分と粘土紐との接合部で段を形成し、上$\frac{2}{3}$も粘土紐の積み上げた跡をくっきりと残す。外面の上半部は縦方向、中位は横方向、以下は乱方向の刷毛目で上下部と下半部は刷毛原体が異なる。内面は全体にナデ調整が施されているが粘土紐接合痕および手づくねの部分の指圧痕がはっきりと残っていて整形は粗雑である。</p>	淡黄褐色で底部に6×8の黒色斑。 0.1~0.3の砂粒を含む。口縁部内面の剝離面に稲の圧痕が認められる。	F 06大溝B内。 白褐色砂層。

小形平底土器

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考（出土地・層位）
26	口径 9.7 胴径 9.7 器高 8.5 口縁部高 2.5 胴部高 6.0	（口縁部） 基部で外弯し、まるみをもってたち上がる口縁部の中位に最大径をもつ。内外面ともにナデ調整が施されているが内面基部には胴部外面の刷毛目と同じ刷毛原体を用いた刷毛目が残っている。 （胴部） 肩のはらない胴部はゆるやかな丸味をもって垂下し、平たいが完全な平底とはならず手づくねの為の凸部が接地する底部へつながる。外面は縦方向の刷毛目だが、上部はナデ調整によって消されており、底部は手づくねで刷毛目は施されていない。内面はヘラで削った後部分的にナデている。	やや赤っぽい黄褐色で胴部に6×6の黒色斑。 0.1～0.2程度の砂粒を含む	F 05大溝B内。 灰色砂層。

甕

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考（出土地・層位）
27	口径 17.8 胴径 23.8 器高 21.8	（口縁部） 外反する口縁部は端部でわずかに上方へ突出す。外面は縦方向の刷毛目の上をナデ調整し、内面は左上から右下へ斜方向の刷毛目を施こしている。 （胴部） 最大径を中位に有する球形で丸底。外面は粘土紐接合痕がみられるが、上半は縦方向下半は乱方向の刷毛目が施され内面はヘラでナデ調整が施されている。	全体に赤茶褐色で胴部に17×17の黒色斑と8×7のスス附着、内面は黄褐色。 0.1～0.3の砂粒を含む。	G 05大溝B内。 黒褐色砂質土層。

28	口径 15.4 胴径 17.7 器高 14.5	(口縁部) 単純に外反する口縁部は基部の径と端部の径がほぼ等しくあまり開かない。内面の基部にゆるやかではあるが陵をもつ。内外面ともにナデ調整が施されている。 (胴部) 最大径をやや下位にもつ下ぶくれの胴部で全体に縦方向の細かい刷毛目が施されているが後で指圧され消えている部分や薄い部分が多い。底部においては乱方向である。	黄褐色で胴部に10×10の黒色斑。 0.1~0.3の砂粒を含む精良な粘土。	G 05大溝B内。 黒褐色砂質土層。 全体に製作時についたキズが多い。
29	口径 12.0 胴径 13.8 器高 14.2	(口縁部) 基部でかすかに外湾し外反ぎみに外上方へひらく。内外面ともにナデ調整が施されているが、刷毛による整形が施されていないため粗いナデ痕を残す。 (胴部) 手づくねの底部が変形している為、全体が歪み、粘土紐との間に段をもつ。手づくねの部分は未調整で上部はヘラ削りが施されるのみ。内面はヘラ削りがなされているが粘土紐接合痕、ヘラ痕がくっきり残っており肩の部分だけナデ調整が施されている。	黄褐色で底部に7×7の黒色斑。 0.1 前後の砂粒を含む。	F 05大溝B内。 灰色砂層。 整形・調整の粗雑な土器。
30	口径 14.2 胴径 16.6 器高 19.0	(口縁部) 「く」の字に外折し、外反ぎみに外上方にひらく口縁部は内外面ともにナデ調整が施される。 (胴部) 最大径を中位にもつ長胴化した胴部で丸底。縦方向の細かい刷毛目で整形されているが、粘土紐の積みあげの段が4~5段残っている。口縁部に近い部分はナデ調整により刷毛目が0.8ほど消されている。底部は乱方向の刷毛目。	黄灰褐色で胴部に赤褐色の部分があり、底部は黒っぽい。胎土は良好。	F 05大溝B内。 黄褐色礫混り砂層。

31	口径 14.2 胴径 16.6 器高 15.7	(口縁部) ゆるやかではあるが「く」の字に外折し、外上方へひろがる。胴部との接合部の外面に縦方向の刷毛目がナデ調整の間に残存する。 (胴部) 最大径を肩に有する球形で丸底。上半のみに縦方向の刷毛目を施こし、下半は未調整。内面はナデ調整が施されているが粘土紐接合痕がはっきりと残存している。	全体に黄褐色で部分的に灰褐色を呈す。 0.1~0.3の砂粒を多く含む	G 07大溝B内。 灰色砂層。
32	口径 14.0 胴径 16.8 器高 16.8	(口縁部) 「く」の字に外折し基部でわずかに外弯してほぼまっすぐに外上方にひろく口縁部は端部で外方に肥厚する。外面はヘラ削りの後ナデ調整、内面は左上方から右下方への粗い刷毛目を施こしている。 (胴部) 最大径を中位よりやや下方にもつほぼ球形であるが手づくねの底部との境に段をもつ外面は全体に刷毛目で口縁部に近い部分から底部までが縦方向で底部は乱方向である。内面はヘラ削り。	全体に黄褐色で内面は黒っぽい灰褐色。 0.1~0.3の砂粒を少量含む	G 07大溝B内。 黄褐色礫混り砂層。
33	口径 13.4 胴径 16.0 器高 16.6	(口縁部) 「く」の字に外折し、外弯ぎみに立つ口縁部は内外面ともに粗いナデ調整が施されている。 (胴部) 最大径を中位よりやや上方にもつ肩のはった形態で手づくねの底部との境に小さな段をもつ。外面は全体に縦方向の刷毛目だが、口縁部に近い所はナデによって消え、肩にかけては斜方向で、底部付近は部分的	茶褐色で底部は暗褐色。 0.1~0.3の砂粒を含む。	G 07大溝B内。 灰色砂層。 粗製で外面の剥落がひどい。

		に乱方向である。内面は全体にナデ調整を行なっているが、底部のヘラ痕と中位の粘土紐接合痕が残っている。		
34	口径 16.7 胴径 20.1 器高 20.7	(口縁部) 「く」の字に外折し、外上方へのびて端部は丸くとじる。内外面ともにナデ調整を施しているが内面に小さな段を4~5段もつ。 (胴部) 最大径を肩部にもつ胴の張らない器形で丸底だが胴部との境は角ばっている。肩より上は細かい刷毛目、以下は粗い刷毛目を施こすが粘土紐の段を残す。内面はヘラ削りの後ナデ調整を行なうが粘土紐接合痕、ヘラ痕を残している。	赤っぽい黄褐色。胴部中位に12×9の黒色斑。 0.1~0.3の砂粒を少量含む	G 07大溝B内。 灰色砂層。
35	口径 14.0 胴部 14.9 器高 16.6	(口縁部) やや外反ぎみに外上方へひらいて粘土紐を接合した部分だけ外湾した端部でとじる。口縁部と胴部はゆるいカーブで接合する。内外面ともナデ調整が施されているが粘土紐接合痕は残っている。 (胴部) 手づくねの底部に粘土紐を6段積んだ胴部は縦長で肩はほとんど張らず丸底。外面は縦方向の刷毛目で上部は5本/1cmと粗く、下部は7本/1cmとこまかく、底部は一方向の刷毛目内面はナデ調整が施されているが粘土紐接合痕がくっきりと残る。	全体に赤っぽい黄灰褐色で底部は黒っぽい。 0.1前後の砂粒を含む精良な粘土。	F 06大溝B内。 白褐色砂層。
36	口径 15.0 胴径 18.7	(口縁部) 外湾ぎみに立ちあがった後外上方へひらき端部へ至る。外湾した部分は肥厚してい	黄灰褐色で下部は黒っぽい。 0.1~0.3の砂	F 05大溝B内。 灰色砂層。

	器高 20.7	<p>る。内外面ともにナデ調整が施されている。</p> <p>(胴部) 長胴化した胴部は最大径を中位に有し、手づくねの底部との境にかかるい段をもつ。外面の最大径より上は縦方向の刷毛目が施されるが、口縁に近い部分はナデ調整によって消されている。最大径より下は乱方向の刷毛目で剥落のためはっきりしないが20数ヶ所の刷毛原体先端による刺突があり、手づくねの部分には指圧痕が残る。内面は指でナデている。</p>	粒を含む。	
37	口径 15.3 胴径 16.9 器高 16.1	<p>(口縁部) 「く」の字に外折し、外反ぎみ外上方にひらき端部で肥厚してとじる。内外面ともにナデ調整が施されている。</p> <p>(胴部) 最大径は中位よりやや上で球形の胴部で丸底。外面は全体に縦方向の刷毛目が施されているが摩耗している。内面は最大径より上のみナデ調整が施されている。</p>	<p>全体的に黄灰褐色で部分的に赤っぽい。</p> <p>0.1~0.3の砂粒を多く含み全体に粗く、その為剥落がひどい。</p>	F 06大溝B内。淡灰色砂層。
38	口径 15.3 胴径 18.2 器高 17.2	<p>(口縁部) 「く」の字に外折し、やや外湾ぎみに外上方へひらく口縁部は、端部で内側が肥厚しその下に凹線を呈す。内外面ともにナデ調整を施こす。</p> <p>(胴部) 最大径を中位よりやや上にもつやや扁平な球形で丸底。外面の最大径より上は縦方向、底部は一方向、その間は斜方向の刷毛目が施されているが最大径部より下の整形は粗い。内面は肩までがナデ調整で粘土紐接合痕、指圧痕を残している。</p>	黄灰褐色。胎土は良好だが整形が雑なため器壁は粗い	F 05大溝B内。灰色砂層。

39	口径	12.5	(口縁部) 「く」の字に外折し、やや内湾ぎみに外上方へひらき肥厚する端部でおわる。内外面ともにナデ調整が施されている。 (胴部) 最大径を中位よりやや下に有したやや縦長い球形で丸底。外面は最大径部より上は縦方向に、下は乱方向に12本/1cmのこまかい刷毛目を施こすが口縁基部付近はナデ調整によって消えている。内面は横方向の刷毛目で底部には刷毛原体先端による刺突がみられる。	赤っぽい黄褐色で内面は黄灰褐色。精良な粘土。	F 05大溝B内。 黄褐色礫混り砂層。
	胴径	15.0			
	器高	16.1			

壺

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考(出土地・層位)	
40	口径	16.3	(口縁部) 単純に外反する口縁部は端部は内側から薄くなっている。内外面ともにナデ調整が施されている。 (胴部) 最大径を下位にもつほぼ球形の胴部で、外面は縦方向の刷毛目が施され、底部はその上をヘラでナデていて刷毛目は消えている。	淡茶褐色で赤褐色と灰黄褐色のまだらがある。 0.3 未満の砂粒を多く含む	F 06大溝B内。 茶褐色砂質土層。
	胴径	26.8			
	器高	27.7			

長頸壺

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考(出土地・層位)
41	口径	10.5	全体に赤っぽい茶褐色。 0.1~0.3の砂粒を含む。	F 05大溝B内。 灰色砂層。
	胴径	13.4		
	器高	16.7		
	口頸部高	7.8		

	<p>胴部高 8.9</p>	<p>には指圧痕が残っている。 (胴部) 最大径を下位に有する下ぶくれの胴部で、底部は平たいが凹凸がある。肩から最大径部までは縦方向の細かい刷毛目が施され、その後で肩部に横方向の刷毛目が1回施されている。底部はヘラ磨きが施されている。内面はヘラ削りの後がはっきり残っている。</p>		
--	----------------	--	--	--

片口大鉢

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考(出土地・層位)
42	<p>口径 19.4 体部径20.7 器高 10.6</p>	<p>(口縁部) 片口の口縁部で、内湾して端部は内傾面をもっておわる。 (体部) 中位下に段をもつ丸底球形の器体は内外面ともに摩耗がひどく調整は不明。</p>	<p>赤褐色。0.1~0.5の砂粒を非常に多く含む。体部2ヶ所に加熱による黒色斑と赤色に変色した部分がある。</p>	<p>G06土壌状遺構内。中位層。</p>

S字口縁壺

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考(出土地・層位)
43	<p>口径 16.6 胴径 21.2 器高 14.6 (推定)</p>	<p>(口縁部) 「く」の字に外折し、端部で上方へつまみあげた様に肥厚する。いわゆる「S字口縁」の形態で基部外面はヘラでナデられているために窪む。 (胴部) 扁球形を呈する。口縁部との接合部分は肥厚している。外面はヘラ削りのあとが残るが摩耗のため調整は不明。</p>	<p>黄褐色だが、全体にススが付着。0.1~0.4の砂粒。</p>	<p>F06、Pit No.52。</p>

把手付鉢形土器

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考（出土地・層位）
44	口径 10.3 器高 11.3	<p>(口縁部) 少し内弯し、端部で薄くなり丸くとする。内外面ともにナデ調整。</p> <p>(体部) 器体中位が少しふくらむがほぼ垂直で中位に把手がつく。外面は刷毛目。内面はナデ調整が施されているが、粘土紐接合痕がくっきりと残る。</p> <p>(底部) 丸底で乱方向の刷毛目が施される。棒による刺突がみとめられる。</p>	<p>暗褐色で部分的に黒っぽい。</p> <p>0.1~0.2の砂粒を含む。</p>	<p>F 06大溝B内。</p> <p>白褐色砂層。</p>

高 坏

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考（出土地・層位）
45	口径 15.1 裾部径11.0 器高 13.6 杯部高 3.9	<p>(杯部) 浅い杯部で底部と口縁部の境界がなく、脚部から外上方へのびて口縁端部でやや立ちあがる。底部内面はナデ調整、口縁部付近は内外面ともにミズビキに類似した回転ナデ、外面下半は脚部を挿入した後刷毛目を施している。</p> <p>(脚部) 脚柱部上半が中実の脚部で脚柱部はほとんどひろがらずに裾部でひろがり、脚柱部に握りしめた痕跡があり斜方向及び縦方向の刷毛目が施され、裾部は縦方向の刷毛目で端部はゆるくナデ調整が行なわれている。内面はへら削りの後、ナデ調整が施される。</p>	<p>全体に淡赤褐色。</p> <p>0.1~0.3の砂粒を含む。</p>	<p>F 05大溝B内。</p> <p>灰色砂層。</p>

46	現存高 8.6 裾高 8.4	(杯部) 水平方向にのびる杯底部よりゆるやかに外上方へひろく杯部は底部と口縁部の境は明瞭ではない。内面はヘラ磨き、外面は縦方向の刷毛目を施す。 (脚部) 脚柱部からゆるやかに裾部に至り端部はヘラ切りされ方形にとじる。杯部との接合部に棒さし痕がみられ、脚柱部と裾部の境付近に径0.8の円孔を2ヶ所穿つ。穿孔は外面から内面へ向けて行なっている。脚柱部外面は縦方向の刷毛目の上をヘラ磨きしており、杯部との接合部にヘラで1条の沈線を施す。裾部外面はナデ調整のあと磨かれている。脚柱部内面はヘラ削りのままで裾部内面は刷毛目を施す。	黄褐色。 精良な胎土。	F 05大溝B内。 黄褐色砂層。
47	口径 17.7 杯部高 5.2	(杯部) 碗形で内面は回転ナデ調整が施され、底面はヘラナデ調整を行なう。外面は縦方向の刷毛目の上を口縁部のみ回転ナデ調整を施している。脚部との接合部で剥離しており杯部と脚部は別途に製作された後、挿入法で接合されている。	黄褐色だが外面の一部分は赤褐色で外面に9×5の黒色斑。砂粒をごくわずか含む精良な粘土	F 07大溝B内。 茶褐色砂質土層。

土 師 塚

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考(出土地・層位)
48	口径 12.0 器高 4.5	(口縁部) わずか外反し薄くなって端部で丸くとじる口縁部は内外面ともにナデ調整が施されている。 (体部) 平坦な底部をもち底部	暗黄褐色を呈すが赤っぽい部分がある。 0.1~0.2の砂粒を含む。	G 06大溝B内。 白褐色砂層。

		中央は肥厚する。内面はナデ調整、外面は刷毛目が施されているが両面とも摩耗のため明確ではない。底部外面に指圧痕を認める。		
49	口径 16.8 体部径17.0 器高 5.5	(口縁部) 全体に浅い皿状を呈し、口縁部は内弯ぎみに立ちあがる。 (体部) 平坦な底部から丸くゆるやかにのびて口縁部へ続く。内外面ともに摩耗がひどく調整は不明である。	赤みのある茶褐色。0.1~0.6の砂粒を非常に多く含む軟質な土器。	G 06、土壙状遺構内。
50	口径 9.4 体部径10.4 器高 5.6	(口縁部) 内弯し、内側へ肥厚して丸くとじる。 (体部) 底部に少し平坦な面をもつが全体に球形を呈す。巻き上げ法によって成形され内面はヘラ削りの後ナデ調整を行ない外面は指整形の後調整は行っていない。その為粘土紐接合痕がはっきりと残っている。	赤褐色。 0.1~0.3の砂粒を含む。	F 05大溝B内。 灰色砂層。
51	口径 11.6 器高 4.6 最大径11.8	(口縁部) 内弯し、端部は内傾する。 (体部) 手づくねで指整形されたらしく、底部に指圧痕を残す。内外面ともに摩耗がひどく細部は観察できない。	淡灰黄褐色で摩耗のひどい部分は赤っぽい。0.3以下の砂粒を多く含むが0.1以下のものが特に多い。	F 05。 茶褐色砂質土層。

土 師 小 皿

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考(出土地・層位)
52	口径 8.3 器高 1.2	浅い皿で中央部は内方へ窪む。 摩耗のため調整は不明である。	茶褐色。0.1未満の砂を含む。	G 08、落ち込み。 暗褐色砂質土層。

53	口径 器高	8.1 1.3	浅い皿で内面はナデ調整が施されているが摩耗がひどくはつきりしない。	白黄褐色。 キメ細かい。	G 08。 旧盛土中。
54	口径 器高	8.0 1.2	浅い皿で中央部は内方へ窪む。摩耗がひどく調整は不明。	赤っぽい黄褐色。キメ細かい胎土。	G 08。 落ち込み 1 内。
55	口径 器高	8.8 1.4	浅い皿で外上方へのびた後、外下方へ下がり上方へ肥厚して端部で丸くとじる。器壁の摩耗のため調整は不明。	赤味の強い色調で、胎土は良好。焼成も良好。	F 05、溝11内。
56	口径 器高	9.8 1.6	口縁部は水平方向へのびて、端部で肥厚し丸くとじる。 内面はナデ調整が施され平滑だが外面は粗い。	白黄色。 キメ細かい胎土。	G 07。 灰褐色砂質土層。

台付皿

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考（出土地・層位）
57	口径 10.8 高台径 5.0 器高 1.9	極めて浅い皿で、断面が三角形を呈する大型の貼り付け高台がつく。高台を貼り付けた後、ナデ調整をくり返すために高台の外側に凹線状の窪みがつく。摩耗がはげしく調整は不明。	内面は淡黄褐色で外面及び高台は白灰色。ごく少量の砂粒を含む。	F 06。 第 2 層床土。

ミニチュア土器

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考（出土地・層位）
58	口径 7.0 器高 3.5	(口縁部) ほぼ垂直にたつ口縁部で器壁が薄く丸い端部でとじる。 (体部) 扁平な体部で丸底。内面と外面の口縁部はナデ調整、底部外面は指整形が施されている。	茶褐色で口縁部に 3×4 の黒色斑。細かい砂粒を含む精良な粘土で焼成も良好。	F 06 大溝 B 内。 白褐色砂層。

59	口径 6.7 器高 3.5	(口縁部) 半球形の器体で、口縁部はやや垂上ぎみにたち、肥厚して端部で丸くとじる。 (体部) まるくおさまるが底部にやや平らな面をもつ。内面と外面の口縁部はナデ調整、外面下半は指整形が施されている。	全体に黄褐色。0.1~0.2の砂粒を含む精良な粘土で焼成も良好。	F 06 大溝B内。 白褐色砂層。 手づくねの土器にしては精良である。
60	口径 6.6 器高 3.9	粘土紐を巻きあげたのち指でおさえただけの粗雑な土器で底部外面に稲の圧痕がある。	暗褐色で4×4の黒色斑。0.1~0.3の砂粒を含む。	F 05 大溝B内。 灰色砂層。

瓦 器 埴

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考(出土地・層位)
61	口径 15.4 器高 5.1 高台径 6.5	比較的深い体部に断面が台形の退化した貼り付け高台がつく。口縁部はわずかに外反し内面に1条の浅い沈線、外面には凹線状の窪みがある。内底面に斜格子の暗文が認められるが他は摩耗のためはっきりしない。外面の下半にへら削り痕がのこり、炭素は全面に吸着している。	黒。良質な粘土。焼成良好。	G 06、Pit No. 52。
62	口径 9.4 器高 3.6	高台の付かない丸味の小さい尖がり気味の底部をもつ小形の瓦器埴で端部で薄くなるとじる。口縁下1~1.5のところに8ヶ所の意識的につけられたと思われる指圧痕がある。摩耗のために暗文・調整は不明。炭素は口縁付近と内面にまばらに吸着。	軟質である。	G 08、Pit No. 37。

大 甕

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考 (出土地・層位)
63	口径 21.6 胴径 22.3 器高 37.6	(口縁部) 基部はくり返しのナデのために外弯し、ゆるやかに外反し端部では方形ぎみにおさまり陵をもつ。ナデ調整が施され、端部はつまんで調整している。 (胴部) 胴長の器体で丸底。全体に縦方向の刷毛目が施され、内面はへら削りののちナデ調整が施されている。	白褐色。 胴部に黒色斑。 0.1~0.3の砂粒を含む精良な粘土。	G 07 大溝B内。 淡灰色砂層。
64	口径 21.6 胴部 25.6 器高 41.2	(口縁部) 基部でゆるく外弯したのち内反ぎみにひらく口縁部は肥厚したのち端部でごく薄くなる。内面は横方向、外面は斜方向の刷毛目が施されている。 (胴部) 胴長の器体で丸底。縦方向の刷毛目が施され、底部はナデられている。内面に粘土紐接合痕が残る。	赤っぽい黄褐色。 0.1~0.4の砂粒を含む。	F 07 大溝B内。 茶褐色砂質土層。
65	口径 19.1 胴径 23.1 器高 37.6	(口縁部) 単純に外反する口縁部は内面は横方向の刷毛目、外面は縦方向に刷毛目の上からナデ調整を施こしている。 (胴部) 胴長の器体で最大径を肩に有し胴は張らない。肩部までは左上から右下の方向、胴部は縦方向、底部は乱方向の刷毛目を施こすが粘土紐の段が残っている。内面はへら削りの後ナデ調整を行なっている。	暗黄褐色を呈し、胴部半面に黒褐色斑。 0.1~0.3の砂粒を少量含む。	G 07 大溝B内。 灰色砂層。

円筒埴輪

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考（出土地・層位）
68	器高 25.0 底径 14.0 器厚 1.1	凸帯を三段にめぐらす円筒埴輪であると思われる、凸帯の下段は1.5で凸帯はすでに退化している。断面は形のくずれた低い台形を示している。透孔の下段は7.8の円形である。下段は外面を7条/1cmの刷毛目で調整し、内面は指による調整で仕上げている。成形は左回りの巻き上げである。	赤褐色で0.3～0.5cm大の砂粒を多く含む。	F 04 大溝B。 灰色砂層。

広口壺

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考（出土地・層位）
69	口径 15.6 胴径 19.0 器高 19.5	（口縁部） 端部は外側に面をもち上方に稜をなす。口縁部は内面から薄くなっている。内・外面ともナデ調整を施されている。端部近くに断面三角形の凸部をめぐる。 （胴部） 最大径を下位にもつほぼ球形の胴部で外面は縦方向の叩きとスリ消し状ナデによって行ない、内面の叩き目は痕跡をほとんど残さないほど丁寧に消されている。	精良な粘土を使用、全体は青灰色。還元されない状態で焼き上がっている。焼成は軟質。	F 05 大溝B。 灰色砂層。

壺

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考（出土地・層位）
70	残存高18.2 胴径 18.8	（口縁部） 欠失する。 （胴部） 肩のはった丸底の器体	暗灰色。精良な粘土で焼成	F 07、井戸1内。 最下層。

		で、頸部との境に丸味のある貼り付け凸帯が、肩部には2条の沈線が施されている。頸部及び肩までは回転ナデによる調整、胴部はヘラ削りのあとヘラナデ調整、底部はヘラ削りのあとヘラでナデ調整を施こしているが底部の調整は粗く指圧痕が残っている。	は堅緻。	
--	--	--	------	--

蓋

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考(出土地・層位)
71	口径 13.7 器高 4.8	(口縁部) 部分的に直上して内弯し天井部へ続くが、全体に内弯しそのまま天井部へと続き端部は丸くとじる。内外面ともに回転ナデによる調整が施されている。 (天井部) 口縁部との境は回転ナデによる鈍い凹線を形成し、ふくらみをもつ。外面の調整は粗くヘラ痕や粘土の付着がそのまま残り、内面は指で調整が施されている。	内面は灰色、外面は暗灰色。ごく少量の砂粒を含む。精良な粘土で、焼成は堅緻。	F 05。 茶褐色砂質土層。
72	口径 12.5 かえり10.0 部径 器高 3.6	(口縁部) 天井部との境に段をもち端部で丸くとじる。内面に口縁部よりわずかに突き出るかえりをもつ。 (天井部) あまりふくらみをもたず、中央部で窪み、天井部中心に宝珠形のつまみがつく。外面はヘラ削りの後回転ナデ調整、内面は丁寧な回転ナデ調整を施こしている。	白灰色。 0.1程度の砂粒をごく少量含む精良な粘土。	F 05 大溝B内。 暗褐色砂質土層。

坏 身

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考（出土地・層位）
73	口径 13.5 高台径 9.3 器高 4.3	（口縁部） 外上方へのびる口縁部の端部は丸くとじる。内外面ともに回転ナデによる調整が施され、ロクロは右回転である。（底部） 未調整のやや丸い底には、外へ踏んばる高台を貼り付けている。内底面はナデ調整、外底面は高台を貼り付けた時に回転ナデによる調整が施されているが中央部は未調整のままである。	紫灰色で黒色塗付物が付着。0.1～0.2の砂粒を微量含む精良な粘土で焼成は堅緻。	G 06、土壙状遺構内。下層。
74	口径 13.1 底部径 8.0 器高 4.1	（口縁部） 外上方へ開く口縁部は端部で丸くとじる。内外面ともに回転ナデ調整が施されている。（底部） 平底で外面は回転ヘラ削り、内面はナデ調整が施されている。	紫灰色で黒色塗付物が付着精良な粘土を使用し、焼成は堅緻。	G 06、土壙状遺構内。下層。
75	口径 12.2 受部径14.4 器高 3.8	（たちあがり） 内傾して短くたち、薄く尖った端部でとじる。（受部） 水平に短く突出する受部は、基部に凹部をもち端部は鈍い稜をもつ。（体部） 浅く底部は尖がり気味で受部との間に段をもつ。全体の $\frac{3}{5}$ を反時計回りにヘラ削りし内面は回転ナデで調整している。	全体に青灰色。0.1～0.3の砂粒を含む。焼成は堅緻。	G 07 大溝B内。灰色砂層。
76	口径 12.2 受部径15.0 器高 4.4	（たちあがり） 内傾したのち短くたち、端部は丸くとじる。（受部） ほぼ水平に薄く突出する。	全体に暗青灰色。0.1～0.3の砂粒を少量含む、	F 07 大溝B内。灰色砂層。

		(体部) 浅く底部は尖がり気味。外面の $\frac{1}{2}$ を反時計回りにヘラ削りし、底部内面はナデ調整し、他の部分は回転ナデによる調整を施こしている。	焼成はやや軟質。	
77	口径 11.5 受部径14.0 器高 4.0	(たちあがり) 内傾したのち短くたち、端部は丸くとじる。 (受部) 外上方へ突出し、端部は丸くとじる。 (体部) 比較的浅い、外面の $\frac{1}{2}$ を時計回りにヘラ削りし、他はナデ調整を施こしている。	全体に黄灰色を呈し、充分に還元されていない状態を示す。0.1~0.3の砂粒を少量含み、受部に1.0の小石を含む。焼成はやや軟質。	F 06 大溝B内。 白褐色砂層。

隰

番号	法量 cm	個々の特徴	色調・胎土 cm	備考(出土地・層位)
78	口径 11.7 胴径 10.5 器高 15.3	(口頸部) 基部の細くしまった頸部は外反しつつ外上方へのび断面が三角形を呈する凸帯を境に内湾ぎみにのびて丸い端部でとじる。内外面ともに回転ナデによる調整が施されている。 (胴部) 肩のはる器体は尖がり気味の丸底で、肩部に1.4×1.2の円孔を穿つ。回転ナデによる調整が施されている。	暗灰色。 0.1~0.4の砂粒を含む精良な粘土。	F 05 大溝B内。 黒色砂質土。
79	口径 9.0 (推定) 胴径 6.6 器高 12.1 (推定)	(口頸部) 外上方へのびたのち外反し、断面が三角形の貼り付け凸帯1条をへて内湾ぎみにのびる。端部は欠失している。頸	灰色。0.5位の砂粒を微量含むが精良な粘土で焼成は	G 06 大溝B内。 茶褐色砂質土層。

	<p>部中位に2条の凹線が施されている。内外面ともに回転ナデ調整が施されているが内面の頸部基部の調整は粗雑である。</p> <p>(胴部) 肩の張った平底の器体には肩の位置に2条の凹線が施され、中位に径0.6の円孔を穿つ。凹線より上はナデ調整、下はヘラ削りが行なわれ、底部は粗雑な仕上げである。</p>	堅緻。
--	---	-----

石 器 類

岡山南遺跡における石器、サヌカイト片あわせて29点である。これらの石材はサヌカイトと砂岩質のものが多く、打製及び磨製石器である。

器種	摘要 遺物No.	現存長 (cm)	最大巾 (cm)	厚み (cm)	重さ (g)	石 質	備 考
石 鏃	80	2.15	1.7	0.2	0.65	サヌカイト	Pit.No.67
石 鏃	81	1.9	1.55	0.3	1.04	サヌカイト	Pit.No.65
石 鏃	82	3.49	1.69	0.48	2.55	サヌカイト	F05、灰色砂層
石 鏃	83	2.4	1.8	0.23	0.85	サヌカイト	F04、灰色砂層
石 錐	84	3.2	1.9	0.7	3.20	サヌカイト	G06、灰褐色砂質土
石 鏃	85	1.58	1.39	0.32	0.40	サヌカイト	F06
石 斧	86	9.8	5.0	3.64	250.00	硬質の砂岩	F05、黒褐色砂質土
敲 石	87	11.62	8.2	5.16	670.00	砂 岩	F05、灰色砂層
尖頭器	88	10.9	5.4	1.5	104.00	サヌカイト	F07、地山面

第5章 ま と め

岡山南遺跡の3次にわたる調査の結果、その一端が明らかにされたにすぎず、今後に多くの問題を残すものであり、現段階で解明された範囲で遺跡の性格等について若干記してまとめにかえたいと思う。

今回の調査規模は巾15m、長さ200mの範囲でその中にピットを検出したがまとまった形でピットをとらえることができなかつたのは残念なことである。しかし、岡山南遺跡は、先に述べたように忍ヶ岡丘陵より西に延びる舌状微高地上に立地し、古墳時代中心の集落跡であることが注目された。第1次調査においては、ピット群及び溝状遺構を検出され、第2次調査においては、竪穴式住居跡、溝状遺構が検出した。この竪穴式住居跡と溝状遺構の前後関係はすでに遺構編で述べたとおりであるが、出土した土器から察するところ、ほぼ同時期に使われたものであろう。

住居跡は推定8m×8mの規模の隅丸方形の竪穴式住居である。この住居跡には周溝は中世に削平されていた。

第3次調査においては、井戸状遺構、大溝、落ち込みと、同一場所に中世の掘立柱建物、近世の溝、溜池が検出された。

井戸状遺構と大溝では出土した土器から察するところ少し時期差があると考えられる。とりわけ大溝内からは完形品約80点を含め約200個体前後が単一層内から出土した。

大溝、竪穴式住居跡、掘立柱建物は5世紀後半～7世紀初頭に属するものである。この他に全調査を通じて、出土した石鎌、石斧、尖頭器等は縄文時代晩期のもと思われるが、付随する遺構は認められなかつた。

本遺跡の西に讃良川遺跡（縄文時代後、晩期）、忍ヶ岡古墳（前期）が同一丘陵に立地している。又、国鉄片町線複線化に伴う発掘調査で、忍ヶ岡駅前遺跡、南山下遺跡、奈良井遺跡からも5世紀後半～7世紀初頭に属する、土師器、須恵器が多量に出土している。これら周辺の遺跡との関連性を求める必要があると思われる。また、古墳時代の円筒埴輪、家形埴輪が出土したことは、周辺の古墳との関連を知る上で、多くの問題点を有するものである。

版圖

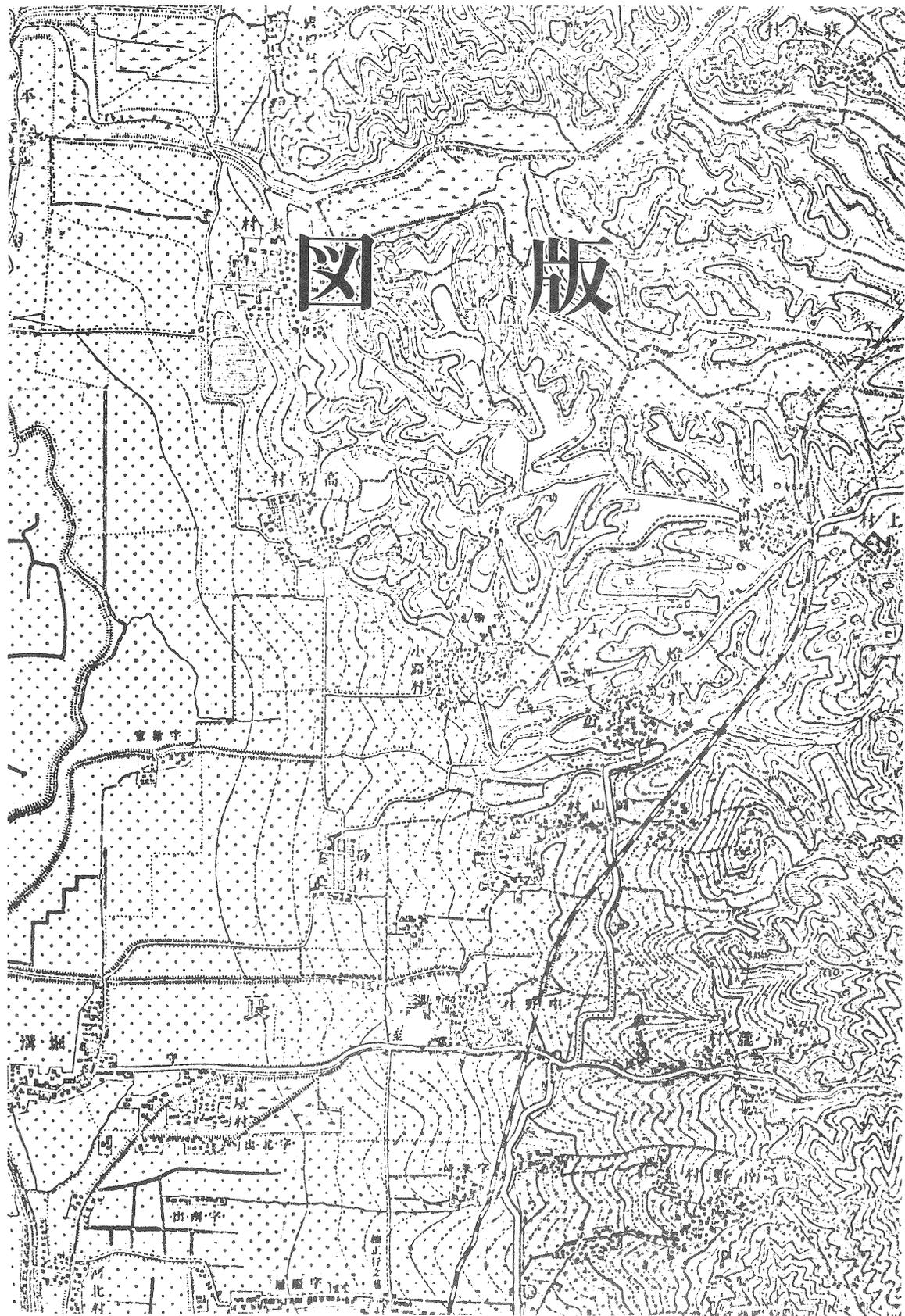
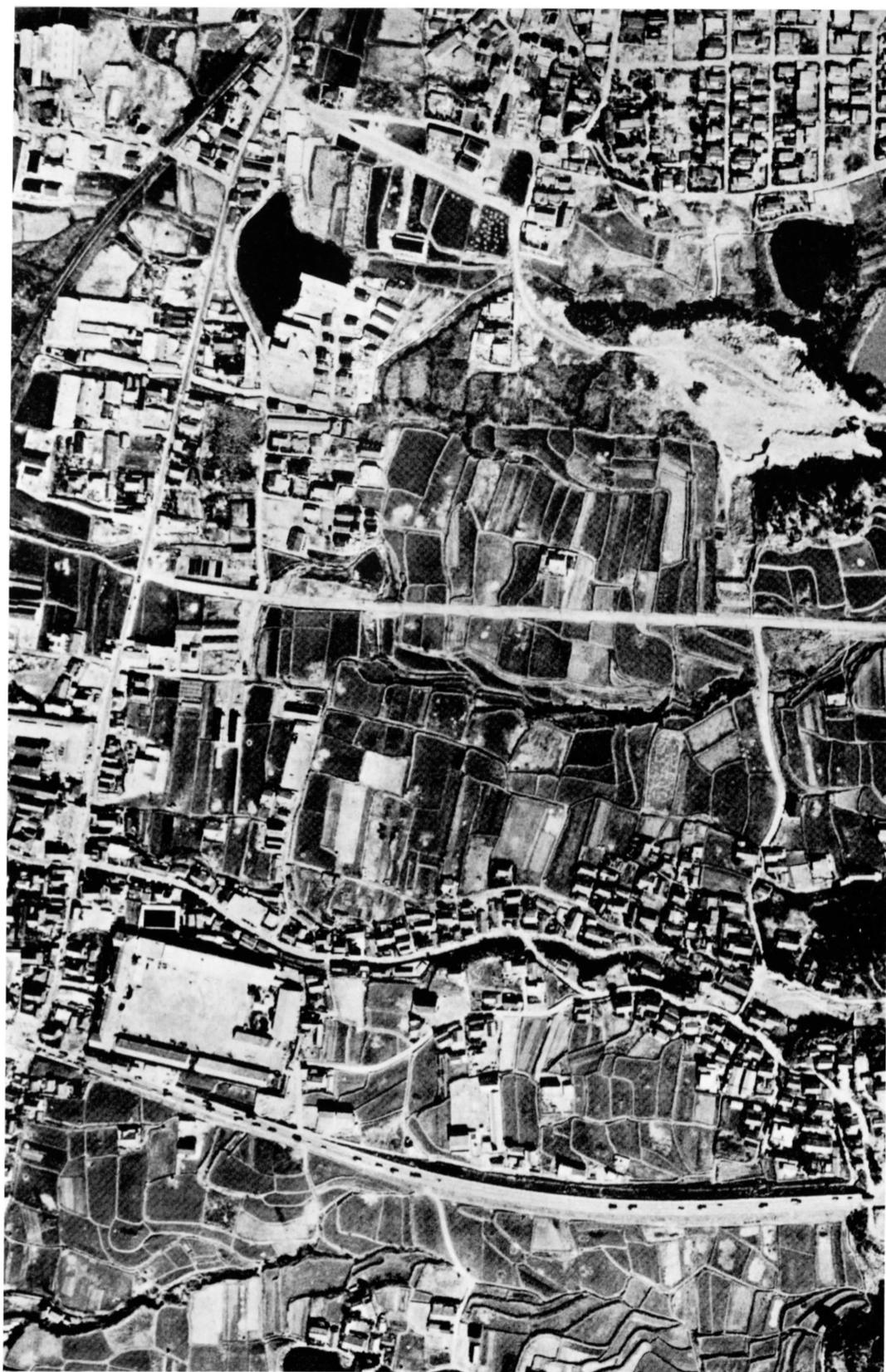


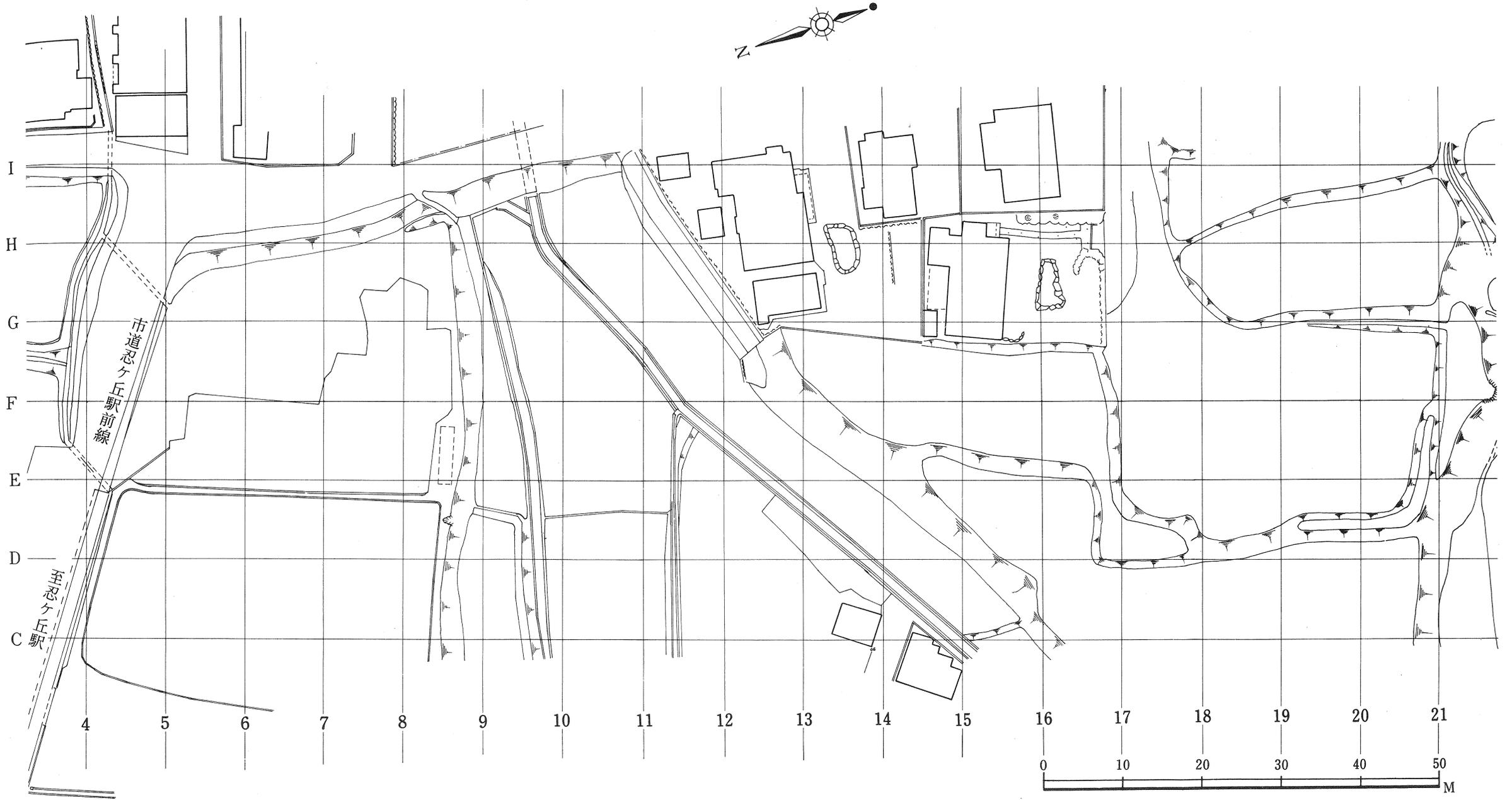
図 版 目 次

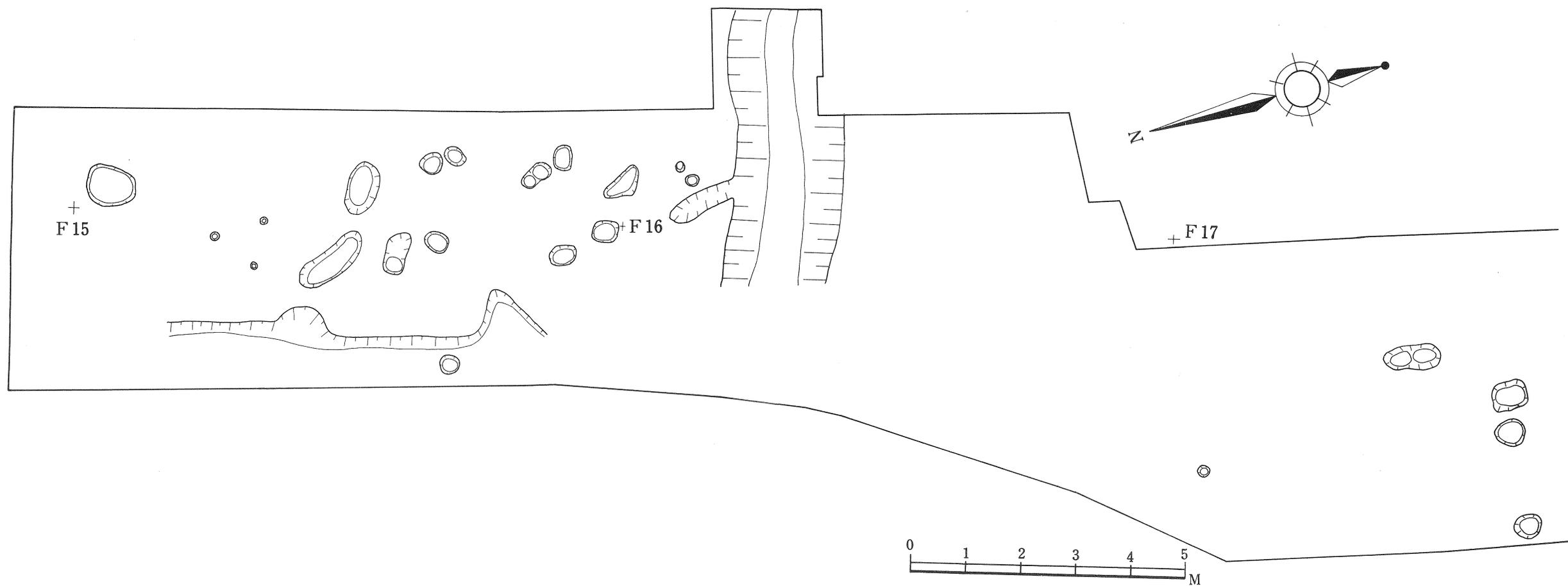
航空写真

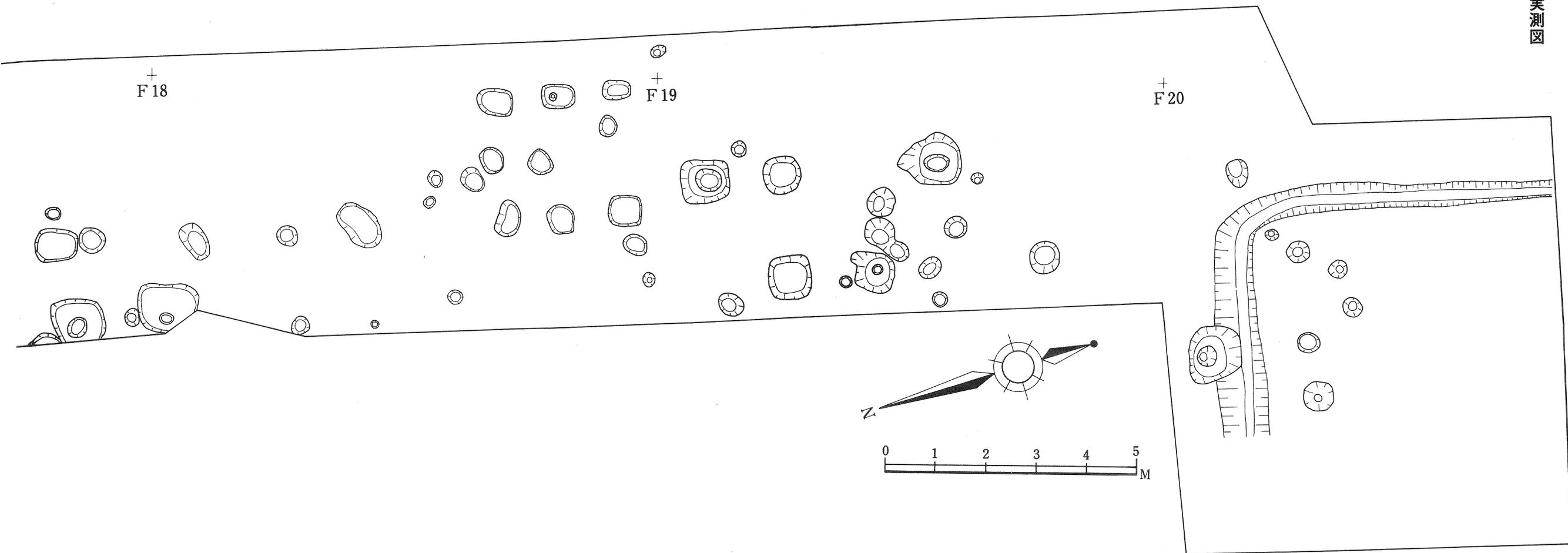
- 図版 1 位置図
- 図版 2 府道枚方・富田林・泉佐野線バイパス予定地平面実測図
- 図版 3—1 第2次調査地区平面実測図
- 図版 3—2 第2次調査地区平面実測図
- 図版 4 古墳時代遺構平面実測図
- 図版 5 大溝B平面実測図
- 図版 6 大溝B断面実測図
- 図版 7 大溝Aおよび井戸1平面・断面実測図
- 図版 8 ピット群平面実測図
- 図版 9 近世小溝群および溜池状遺構平面実測図
- 図版10—1 大溝B遺物出土状況実測図
- 図版10—2 大溝B遺物出土状況実測図
- 図版10—3 大溝B遺物出土状況実測図
- 図版11 大溝Bはにわ出土状況実測図
- 図版12 大溝B遺物出土状況実測図
- 図版13 大溝B遺物出土状況実測図
- 図版14—1 大溝Bはにわ出土状況実測図
- 図版14—2 土壙状遺構遺物出土状況実測図
- 図版14—3 井戸1遺物出土状況実測図
- 図版14—4 ピットNo.60遺物出土状況実測図
- 図版14—5 ピットNo.52遺物出土状況実測図
- 図版15 第1、第2次調査出土遺物実測図（遺物番号1～9）
- 図版16 第3次調査出土遺物実測図（遺物番号10～22）
- 図版17 第3次調査出土遺物実測図（遺物番号23～30）
- 図版18 第3次調査出土遺物実測図（遺物番号31～37）
- 図版19 第3次調査出土遺物実測図（遺物番号38～43）
- 図版20 第3次調査出土遺物実測図（遺物番号44～62）
- 図版21 第3次調査出土遺物実測図（遺物番号63～66）

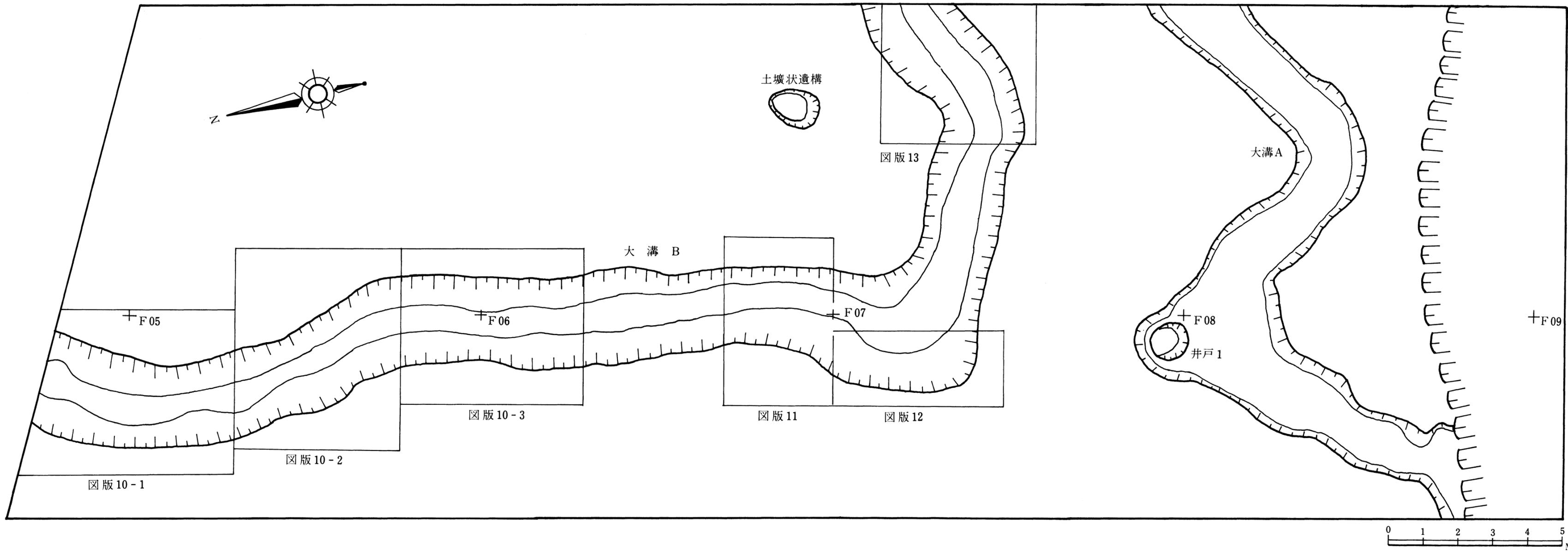
- 図版22 第3次調査出土遺物実測図（遺物番号67～68）
- 図版23 第3次調査出土遺物実測図（遺物番号69～79）
- 図版24 第2次調査地区調査前全景写真
- 図版25 第2次調査地区終了全景および遺物出土状況写真
- 図版26 遺物出土状況写真
- 図版27 遺物出土状況写真および第3次調査地区調査前全景
- 図版28 第3次調査地区調査前全景およびPit・小溝群遺構写真
- 図版29 大溝A・B遺構写真
- 図版30 大溝B遺物出土状況写真
- 図版31 大溝B遺物出土状況写真
- 図版32 大溝B遺物出土状況写真
- 図版33 大溝B遺物出土状況写真
- 図版34 井戸1および大溝B遺物出土状況写真
- 図版35 土壌状遺構遺物出土状況写真
- 図版36 出土遺物写真（遺物番号1～6）
- 図版37 出土遺物写真（遺物番号7～9）
- 図版38 出土遺物写真（遺物番号10～15）
- 図版39 出土遺物写真（遺物番号16～21）
- 図版40 出土遺物写真（遺物番号22～27）
- 図版41 出土遺物写真（遺物番号28～33）
- 図版42 出土遺物写真（遺物番号34～39）
- 図版43 出土遺物写真（遺物番号40～45）
- 図版44 出土遺物写真（遺物番号46～51）
- 図版45 出土遺物写真（遺物番号52～62）
- 図版46 出土遺物写真（遺物番号63～66）
- 図版47 出土遺物写真（遺物番号67）
- 図版48 出土遺物写真（遺物番号68～74）
- 図版49 出土遺物写真（遺物番号75～79）
- 図版50 尖頭器・石鏃写真
- 図版51 磨製石斧・石鏃写真
- 図版52 たたき石写真

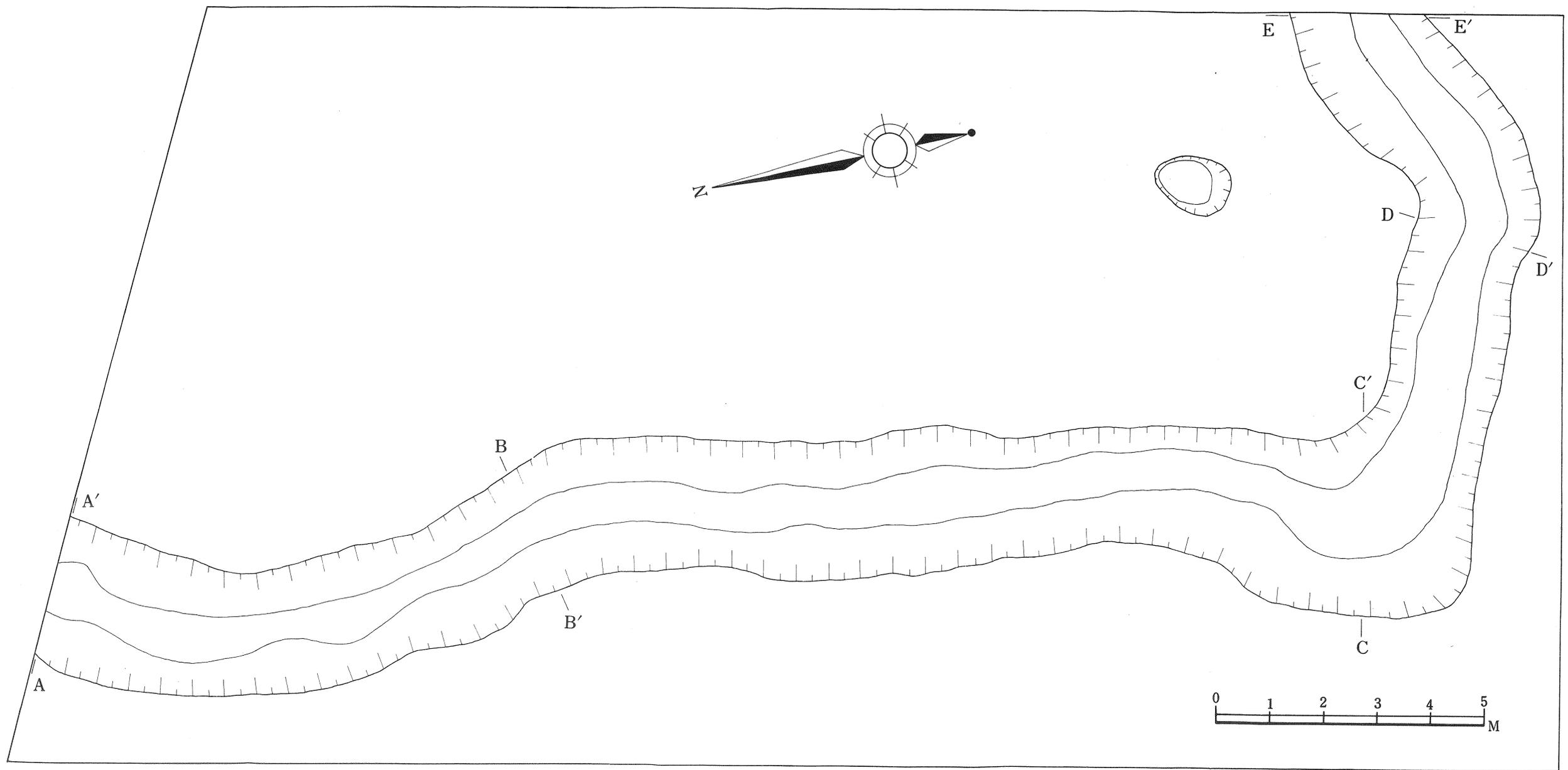


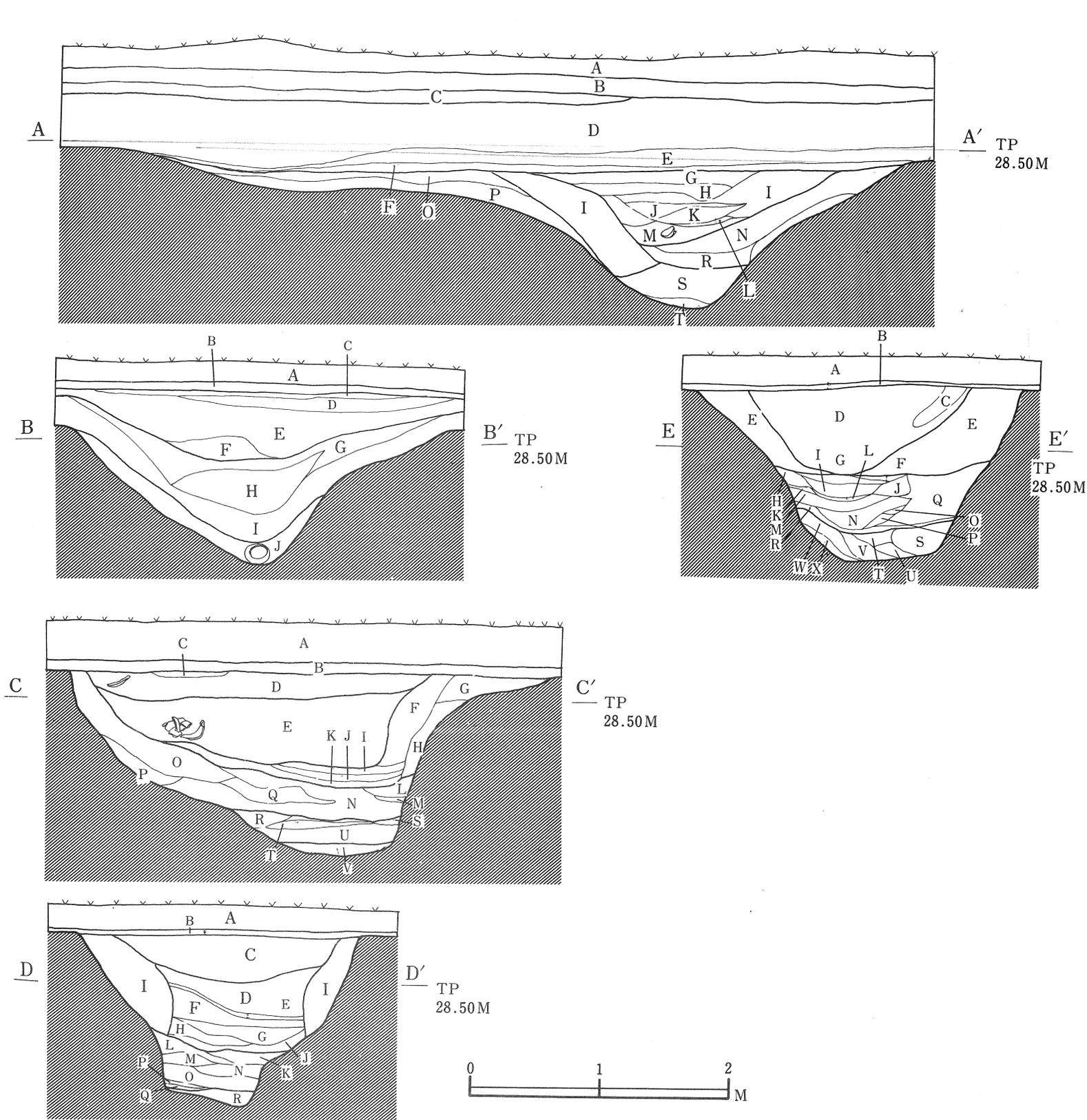




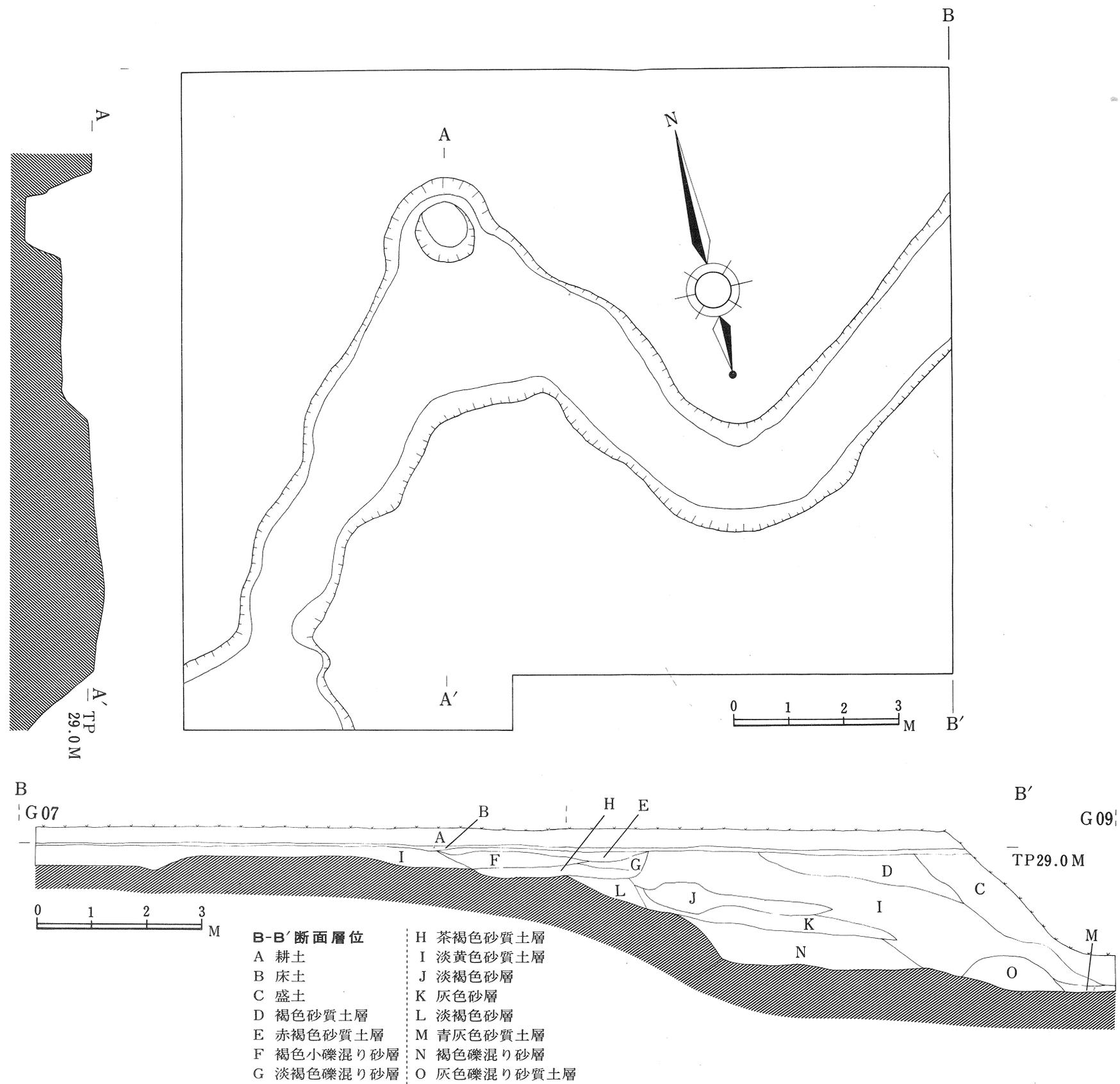


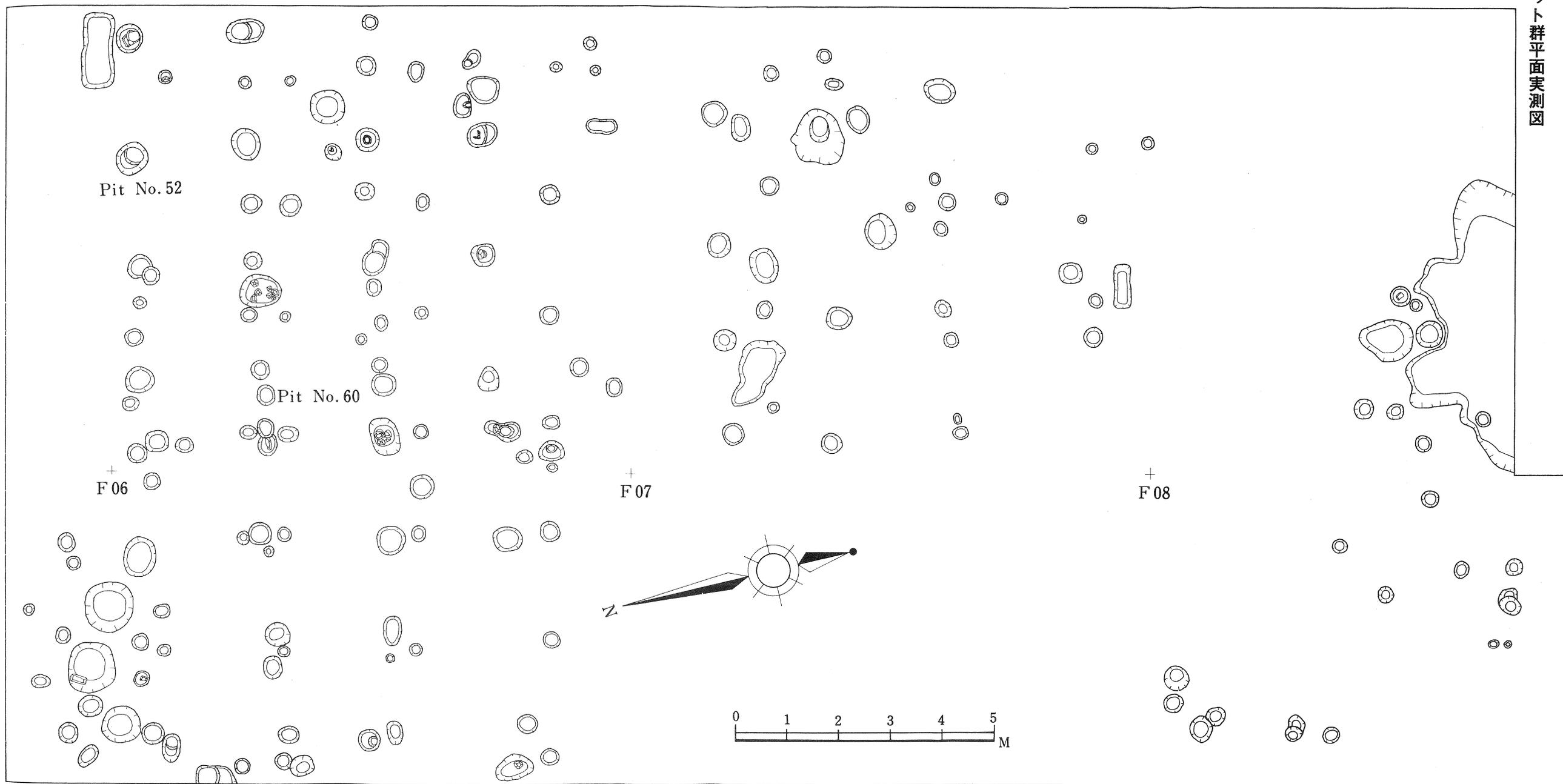


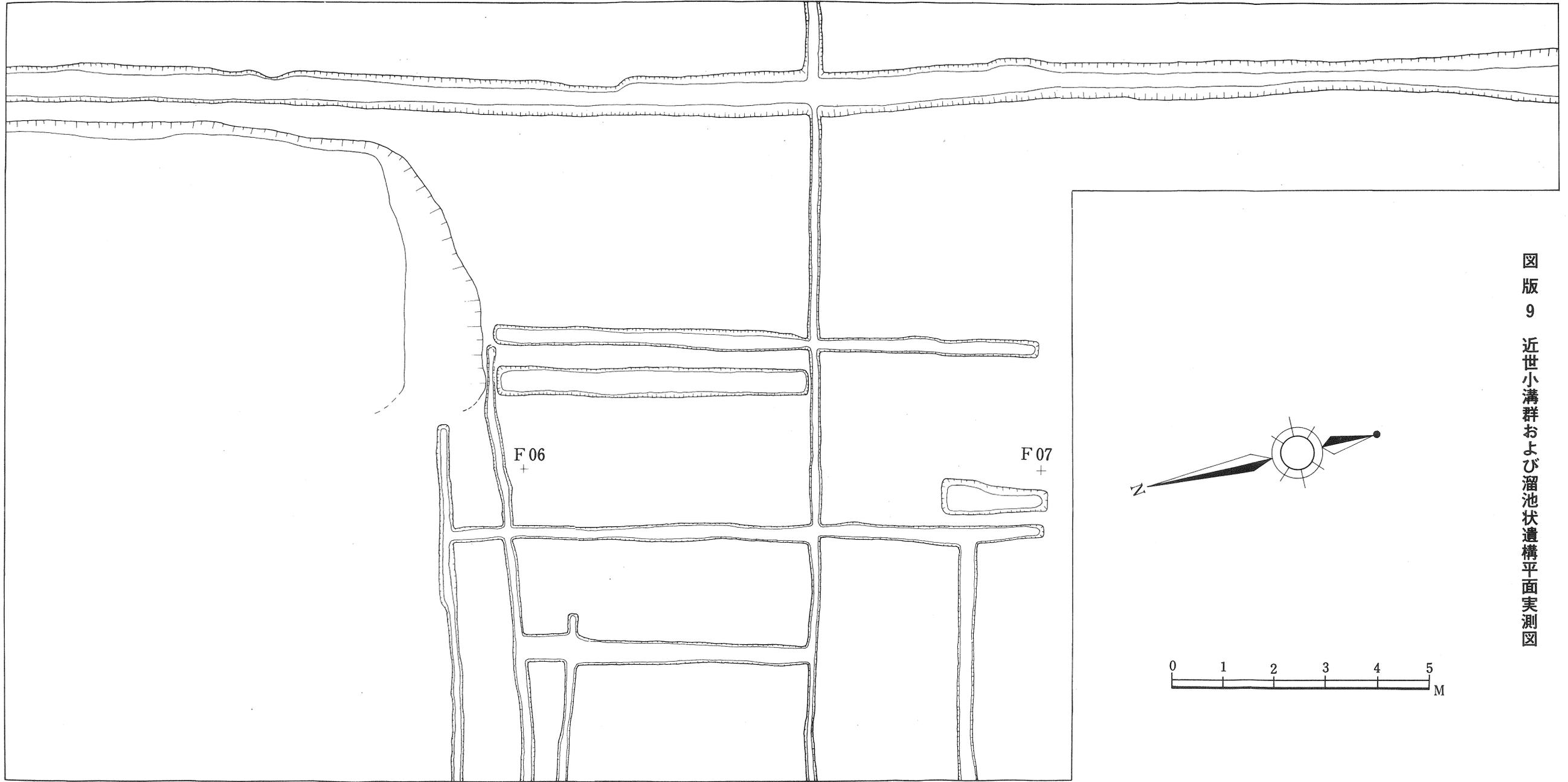




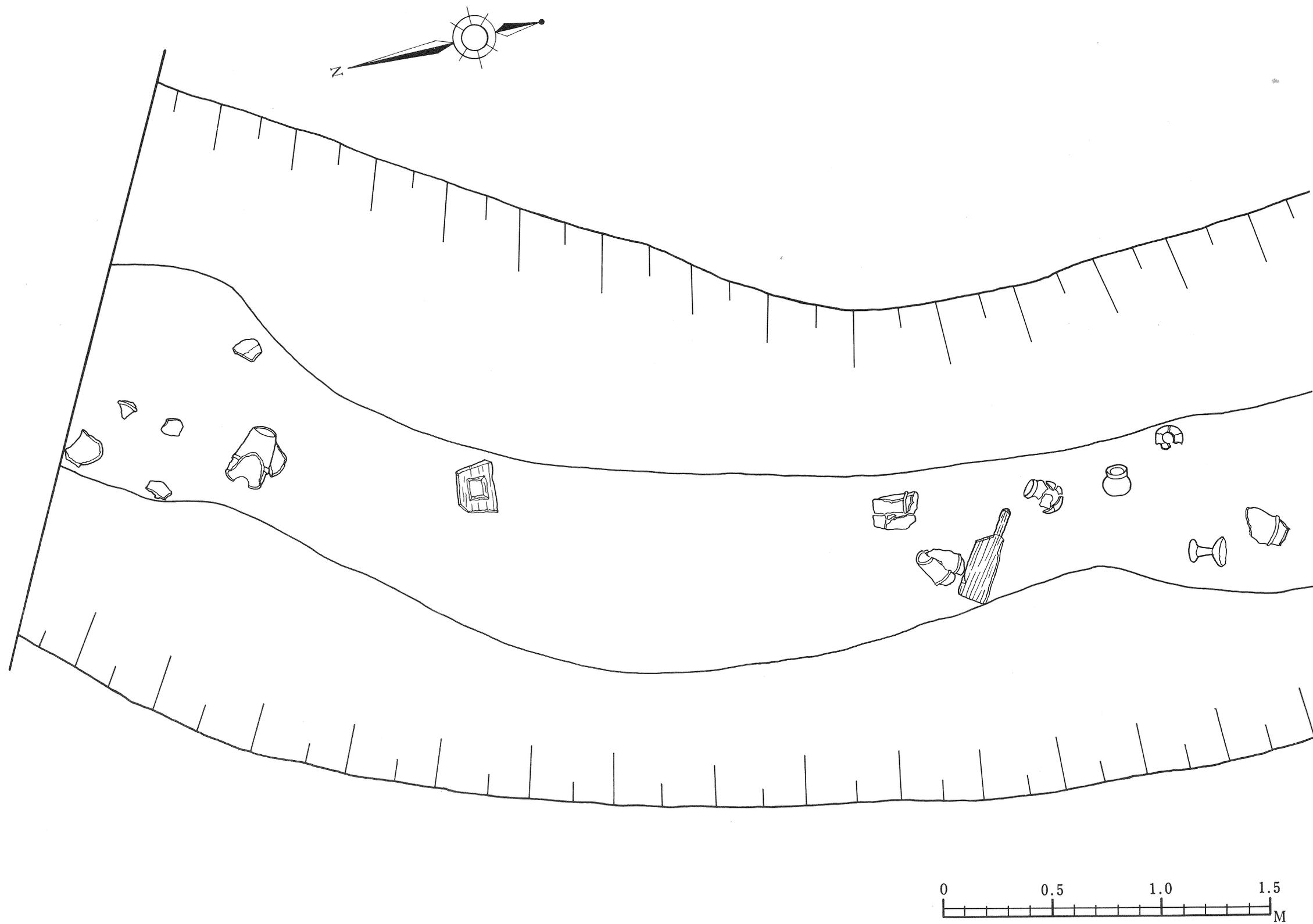
- 大溝B 断面層位 A-A'**
- A 耕土
 - B 床土
 - C 灰褐色砂質土層
 - D 茶褐色砂質土層
 - E 暗褐色砂質土層
 - F 暗黄褐色粘質土層
 - G 暗灰色砂層
 - H 灰色粘土混り暗灰色砂層
 - I 黑色砂質土層
 - J 白褐色砂層
 - K 淡灰色細砂層
 - L 灰色粘土層
 - M 明灰色砂層
 - N 黑色粘土層
 - O 暗灰色砂層
 - P 黄褐色砂層
 - Q 暗灰色粘土層
 - R 灰色細砂層
 - S 灰色砂層
 - T 黄褐色礫層
- 大溝B 断面層位 D-D'**
- A 耕土
 - B 床土
 - C 黄褐色粘土混り砂質土層
 - D 茶褐色砂質土層
 - E 灰色粘土混り砂層
 - F 灰白色細砂層
 - G 淡灰色小礫混り砂層
 - H 灰色粘土層
 - I 暗褐色砂質土層
 - J 淡灰色細砂層
 - K 白褐色砂層
 - L 暗灰色細砂層
 - M 灰褐色砂層
 - N 白褐色礫混り砂層
 - O 灰色砂層
 - P 暗灰色粘土層
 - Q 白褐色細砂層
 - R 黄褐色礫層
- 大溝B 断面層位 E-E'**
- A 耕土
 - B 床土
 - C 淡褐色砂質土層
 - D 黄褐色粘質混り砂質土層
 - E 暗褐色砂質土層
 - F 淡灰色細砂層
 - G 淡黄褐色砂層
 - H 濃灰色砂質土層
 - I 白褐色砂層
 - J 灰白色砂質土層
 - K 灰色粘土層
 - L 赤褐色砂層
 - M 暗灰色粘土層
 - N 明灰色粘土層
 - O 灰色細砂層
 - P 明灰色礫混り砂層
 - Q 淡黄褐色混り暗褐色粘質土層
 - R 濃灰色粘土混り細砂層
 - S 黄色混り暗褐色粘土層
 - T 黄褐色礫層
 - U 灰色砂層
 - V 暗灰色粘土層 (植物含)
 - W 濃灰色砂混り粘土層
 - X 灰色砂層
- 大溝B 断面層位 B-B'**
- A 耕土
 - B 床土
 - C 灰褐色砂質土層
 - D 黒褐色砂質土層
 - E 茶褐色砂質土層
 - F 黄白色砂質土層
 - G 暗褐色砂質土層
 - H 白褐色砂層
 - I 暗灰色粘土層
 - J 淡灰色粘土層
 - K 淡褐色細砂層
 - L 濃灰色粘土層
 - M 淡灰色細砂層
 - N 白褐色砂層
 - O 暗褐色砂質土層
 - P 淡黄灰色砂質土層
 - Q 淡灰色細砂層
 - R 淡青灰色細砂層
 - S 暗灰色粘土層
 - T 灰色小礫混り砂層
 - U 灰色砂層
 - V 黄褐色礫層
- 大溝B 断面層位 C-C'**
- A 耕土
 - B 床土
 - C 黒褐色砂層
 - D 黄褐色砂質土層
 - E 茶褐色砂質土層
 - F 暗褐色砂質土層
 - G 黄褐色砂質土層
 - H 暗褐色砂質土層
 - I 淡灰色細砂層
 - J 灰色粘土層
 - K 淡褐色細砂層
 - L 濃灰色粘土層
 - M 淡灰色細砂層
 - N 白褐色砂層
 - O 暗褐色砂質土層
 - P 淡黄灰色砂質土層
 - Q 淡灰色細砂層
 - R 淡青灰色細砂層
 - S 暗灰色粘土層
 - T 灰色小礫混り砂層
 - U 灰色砂層
 - V 黄褐色礫層

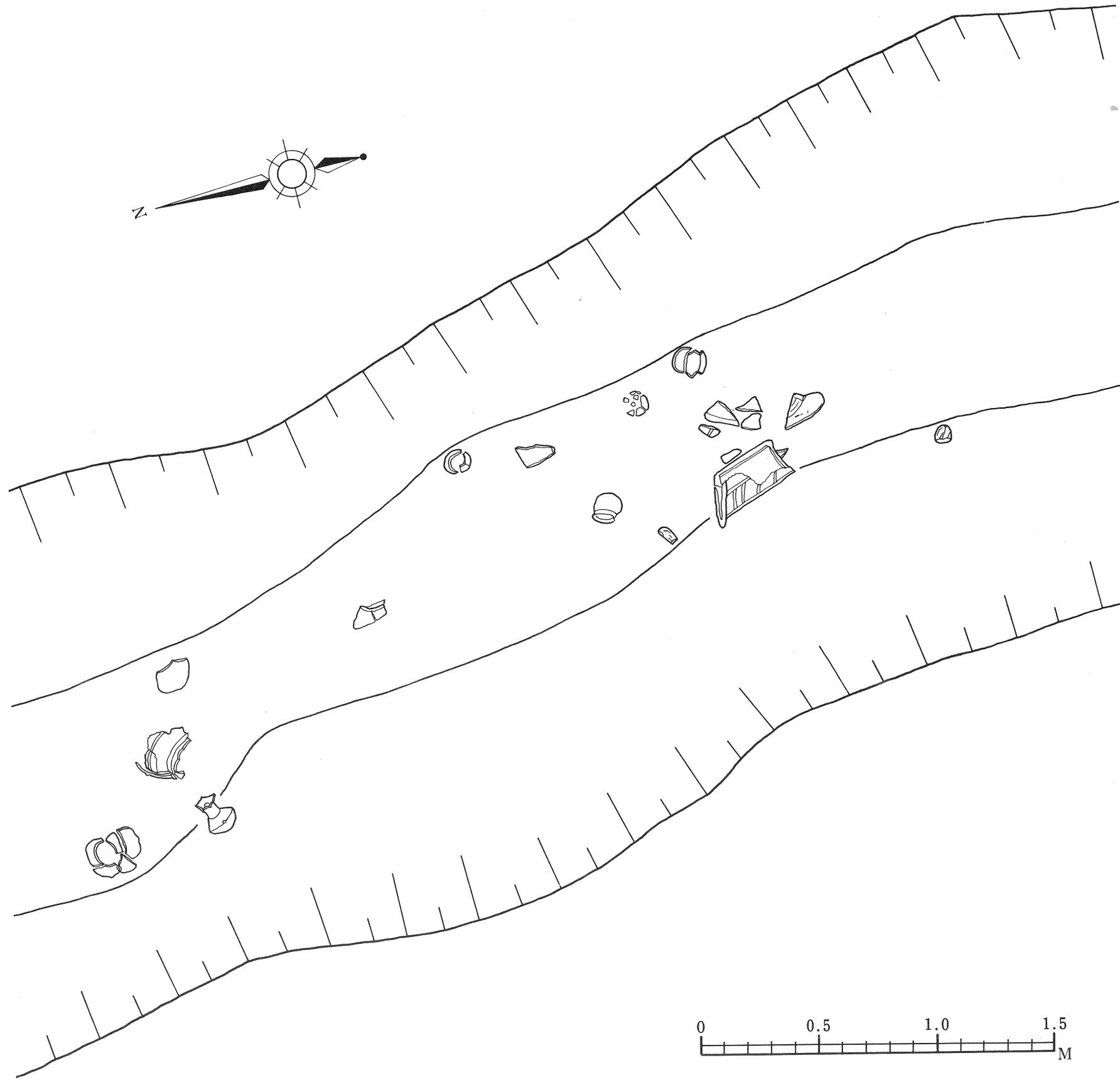


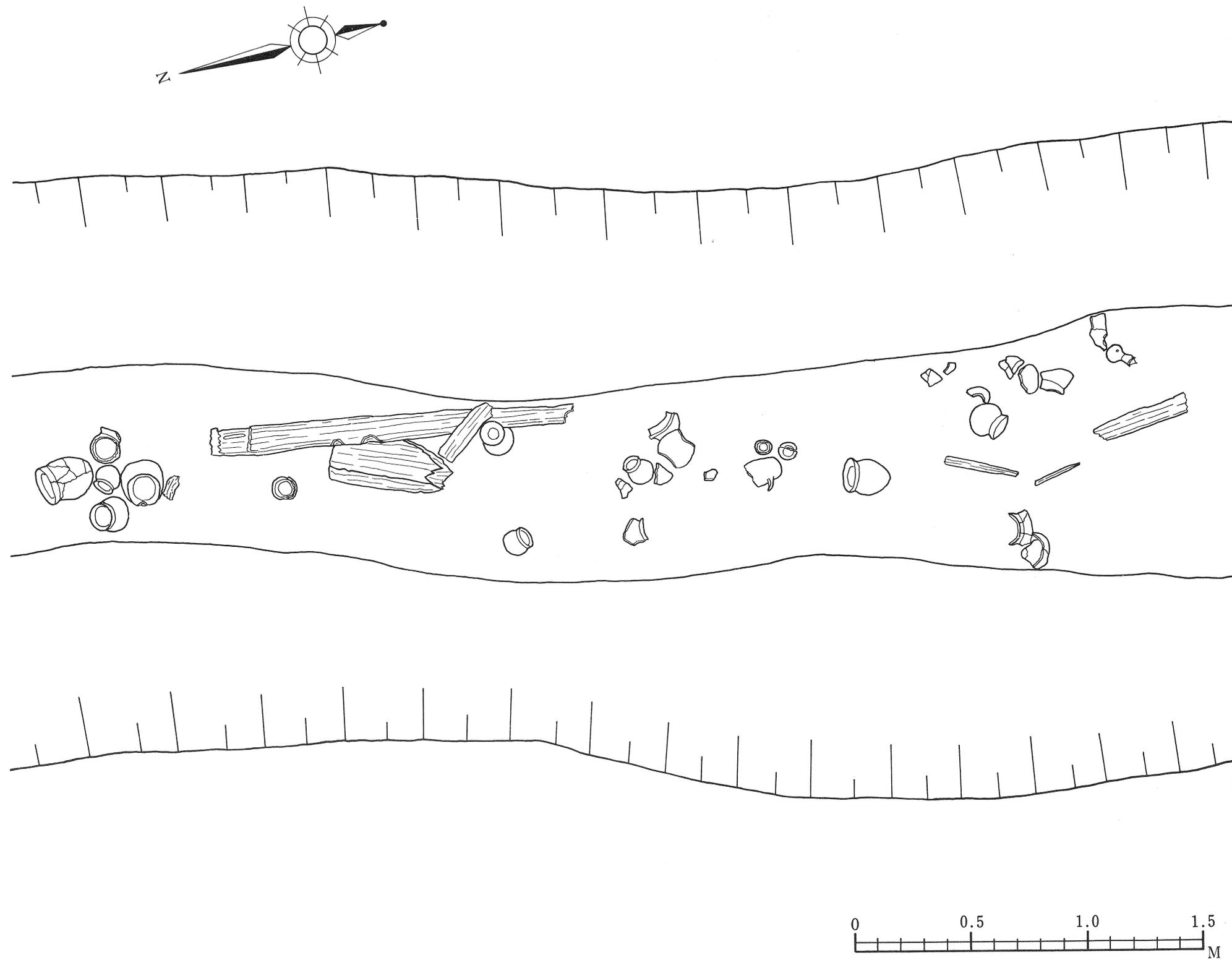


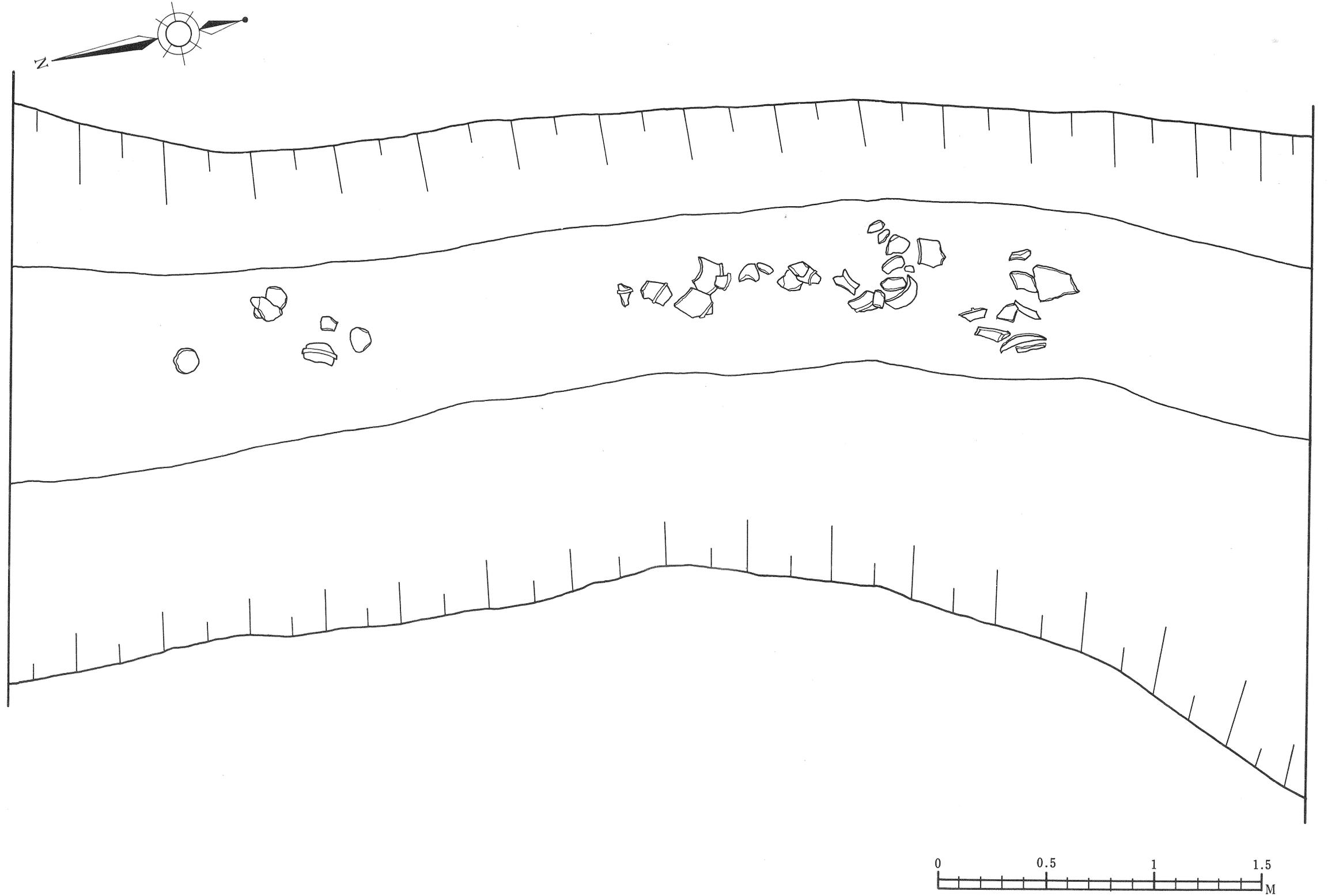


図版 9 近世小溝群および溜池状遺構平面実測図

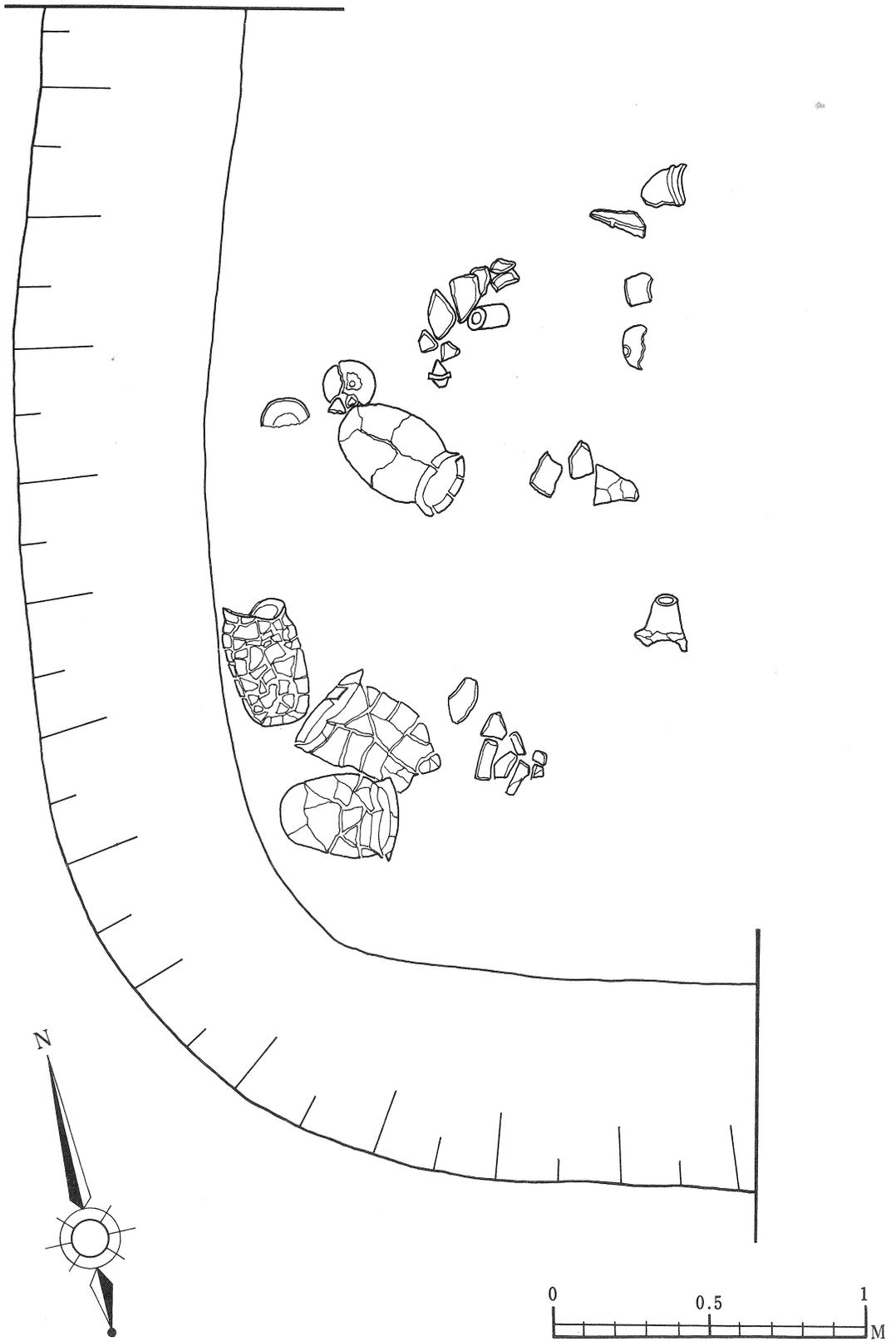


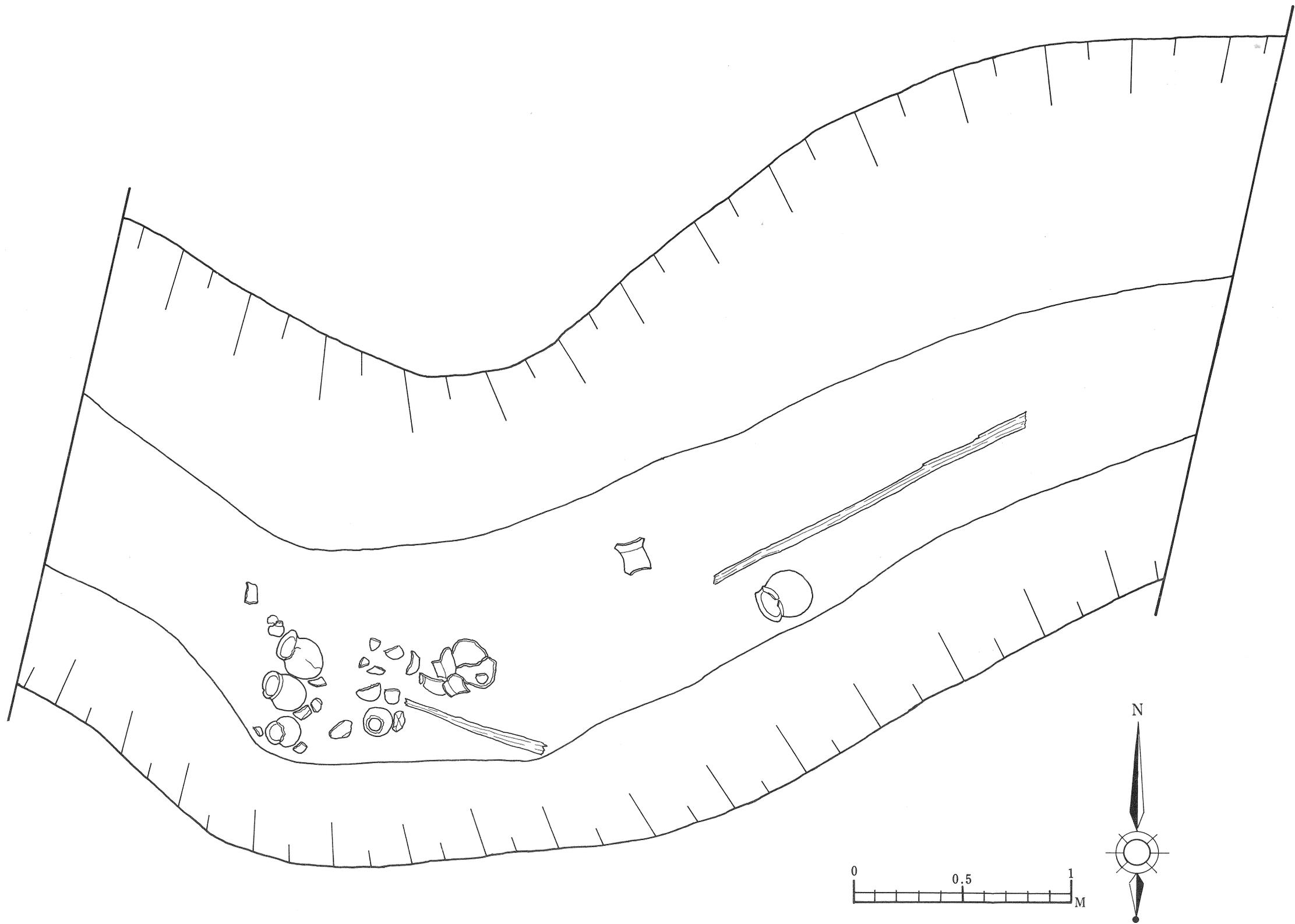


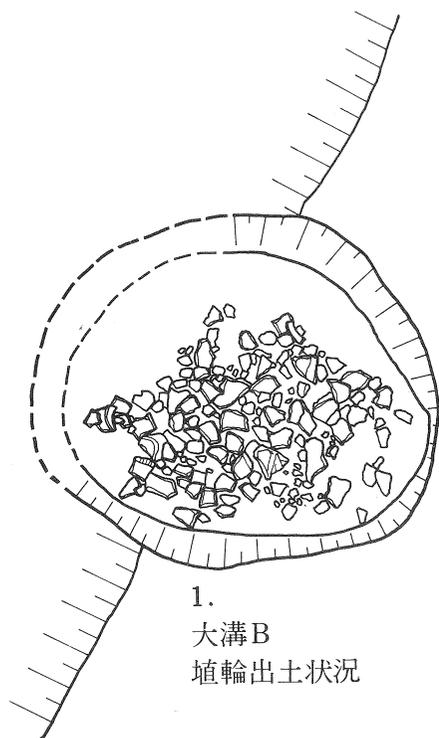




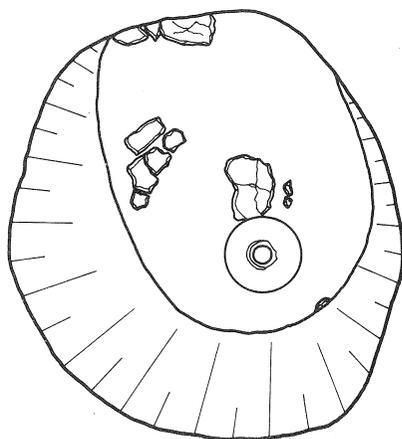
図版 12 大溝B遺物出土状況実測図



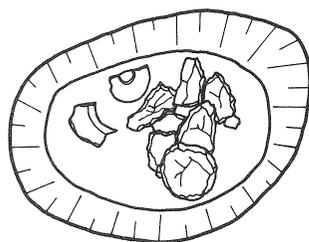




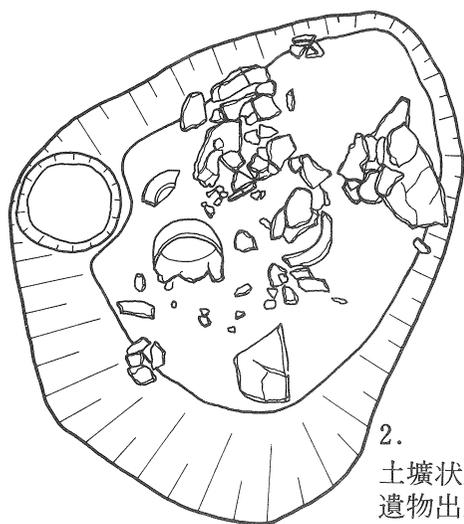
1.
大溝B
埴輪出土状況



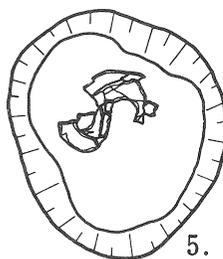
3.
井戸1
遺物出土状況



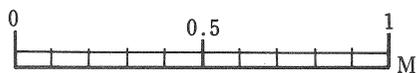
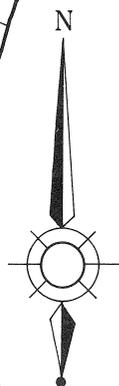
4.
Pit No. 60
遺物出土状況

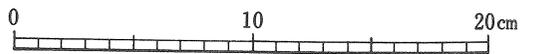
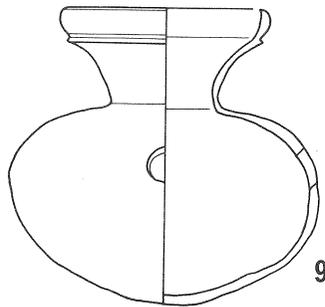
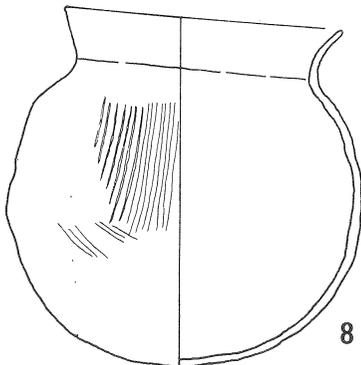
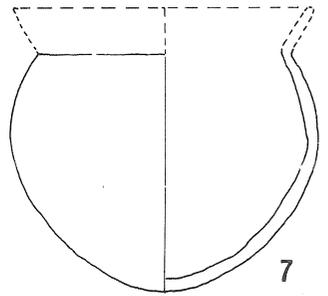
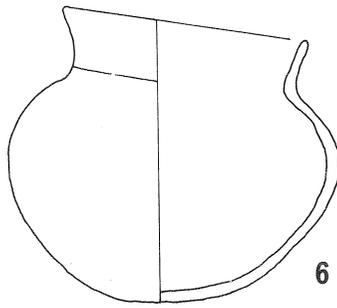
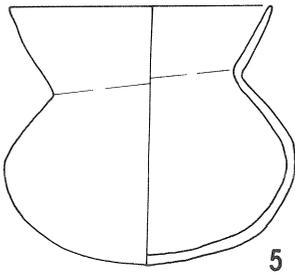
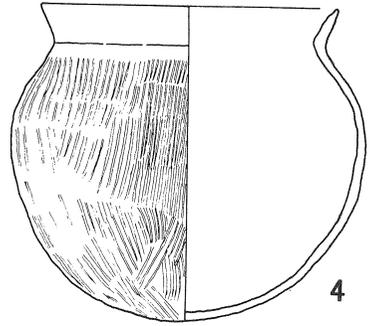
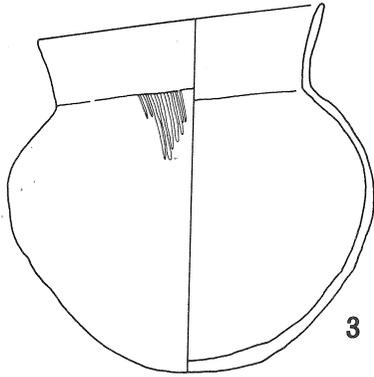
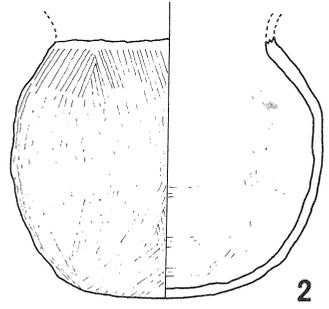
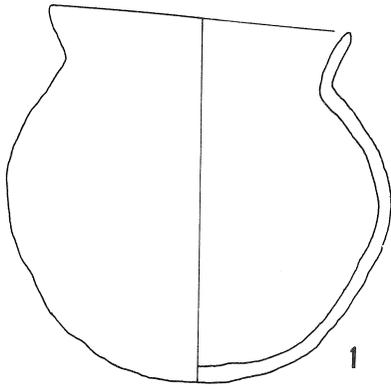


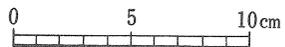
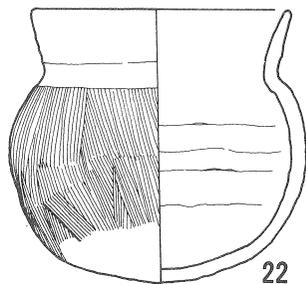
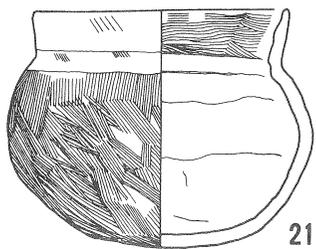
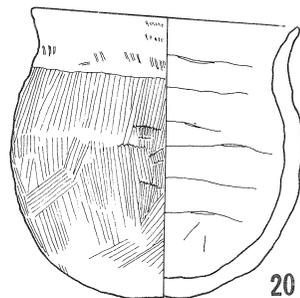
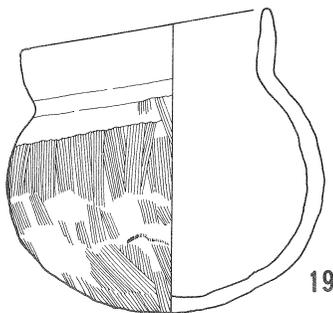
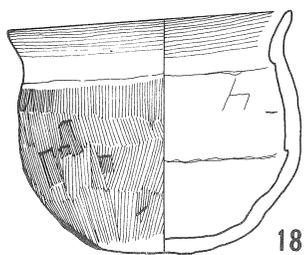
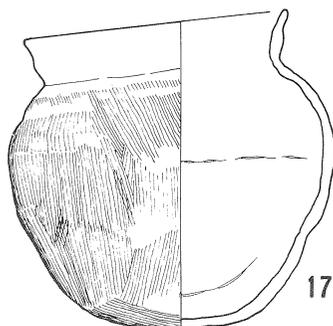
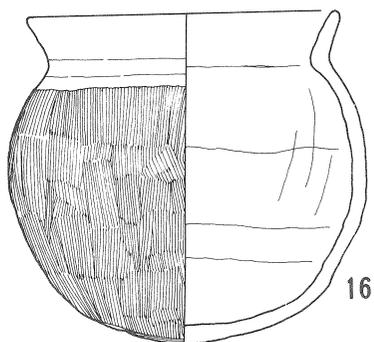
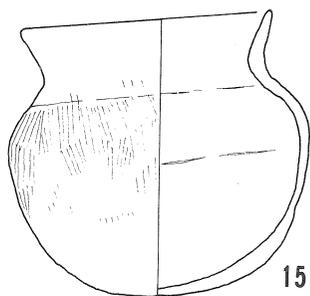
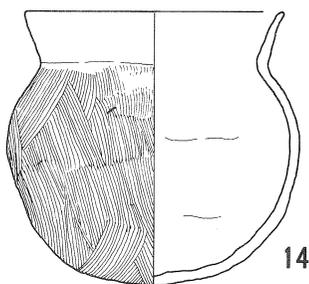
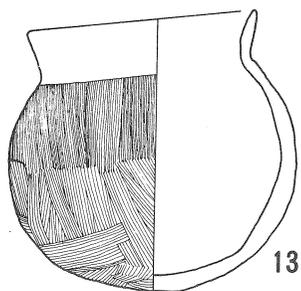
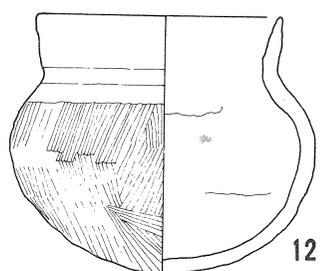
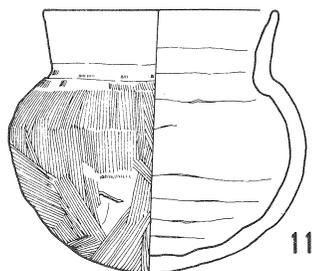
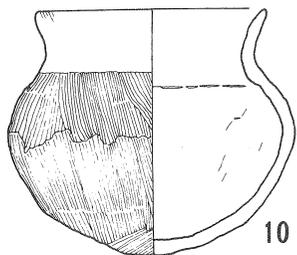
2.
土壙状遺構
遺物出土状況

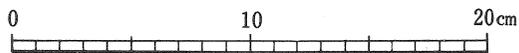
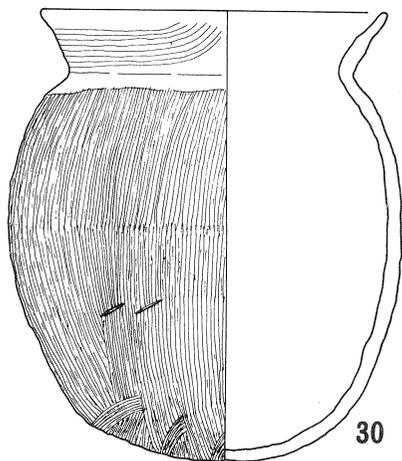
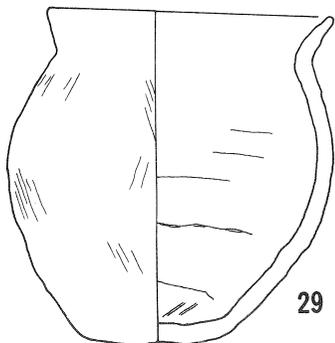
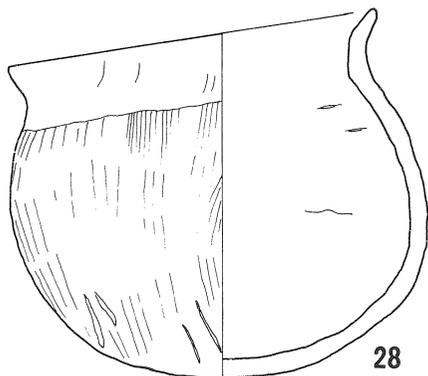
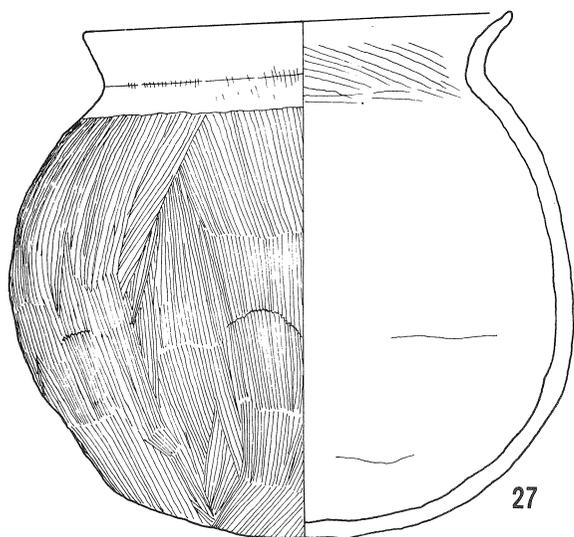
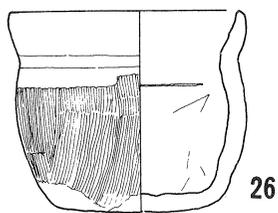
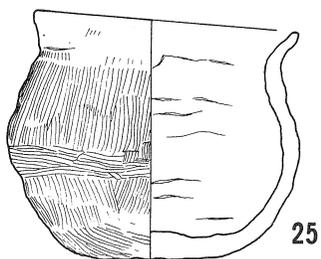
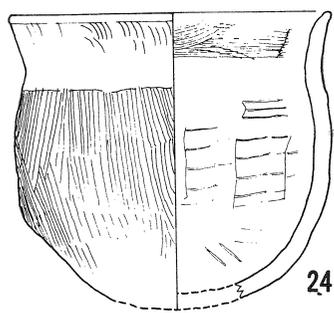
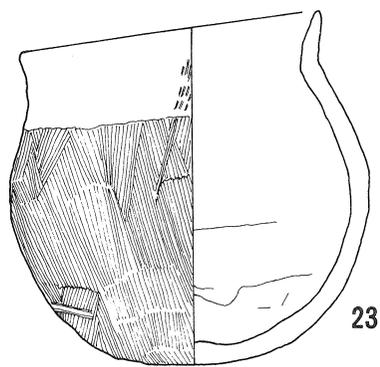


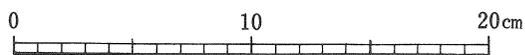
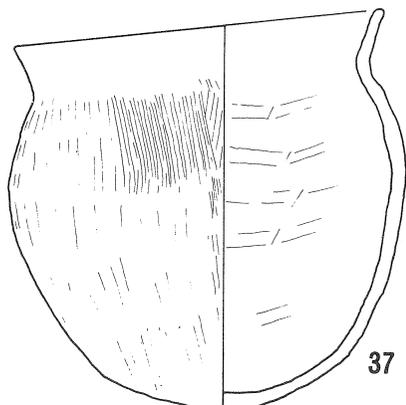
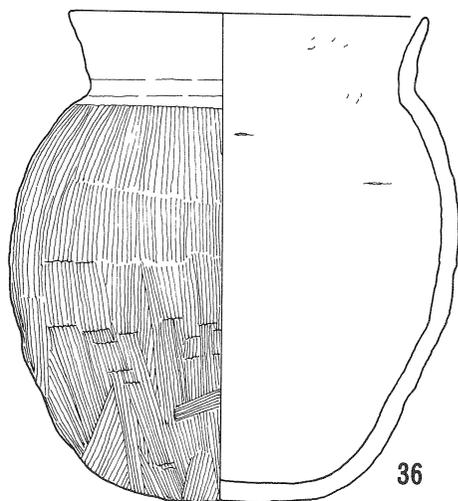
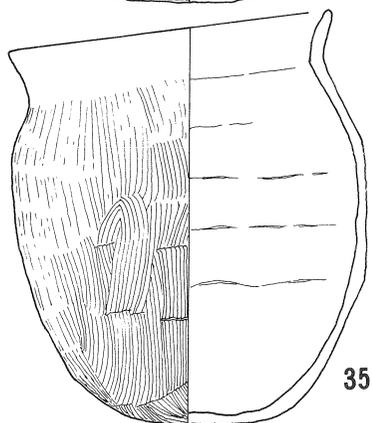
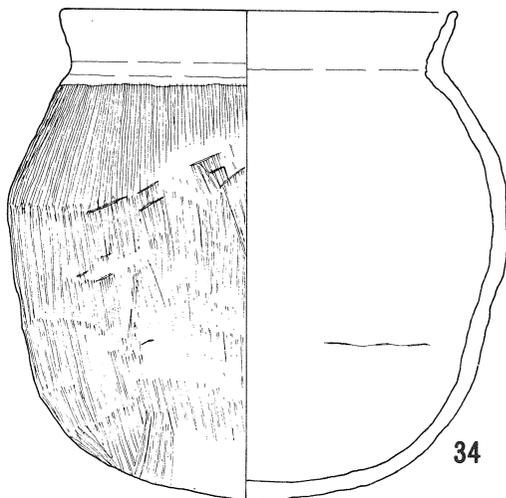
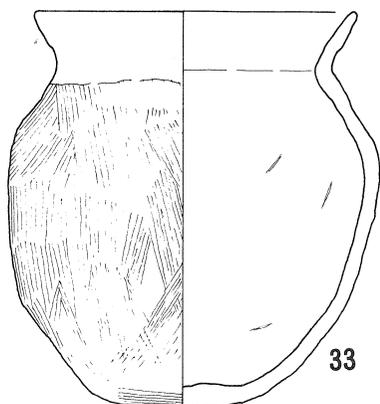
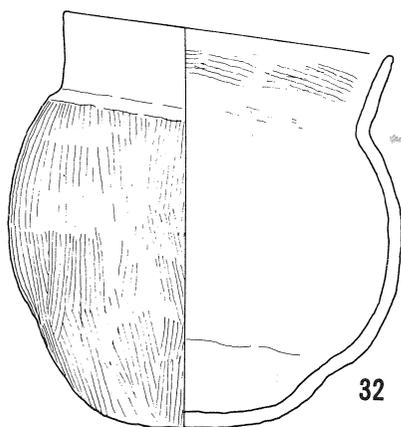
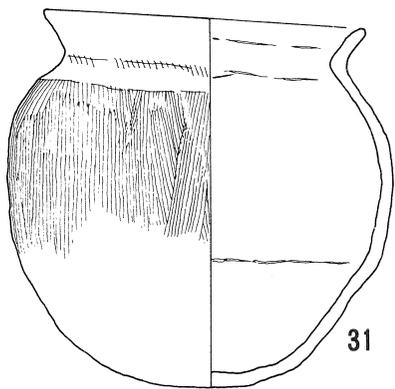
5.
Pit No. 52
遺物出土状況

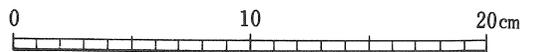
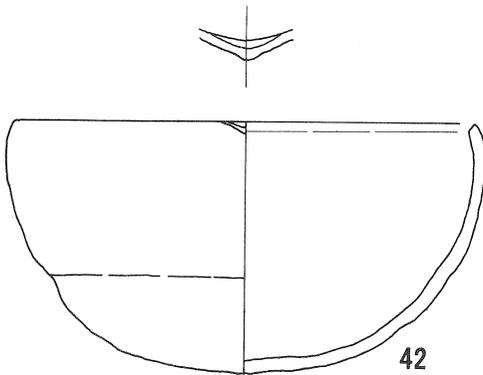
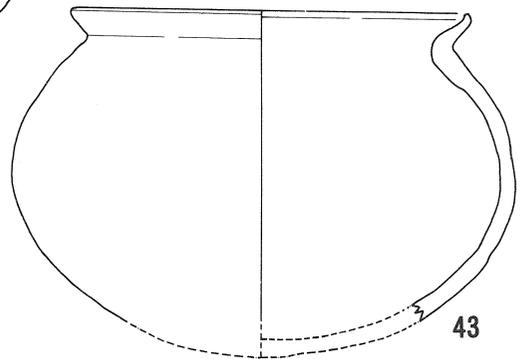
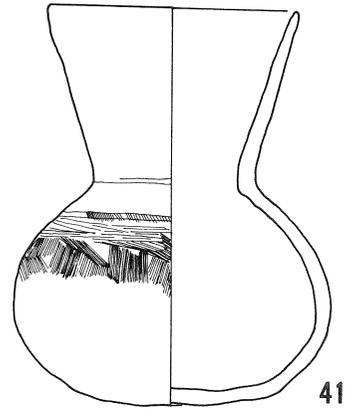
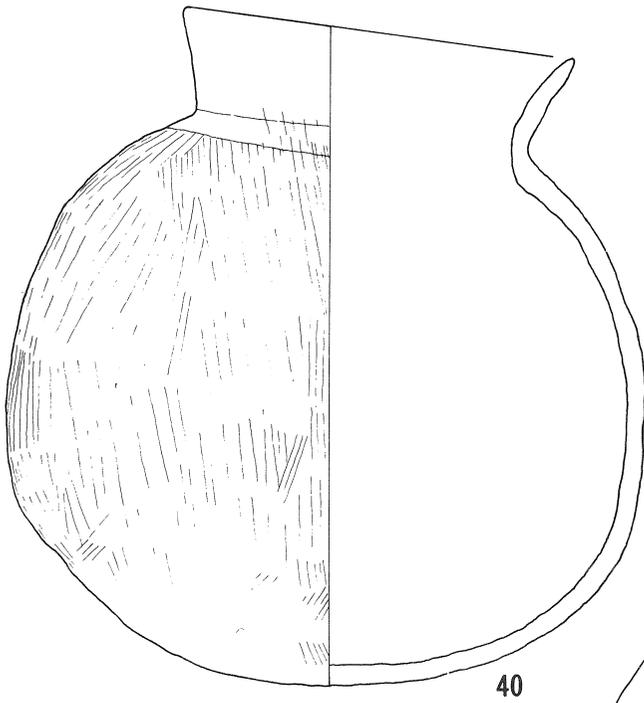
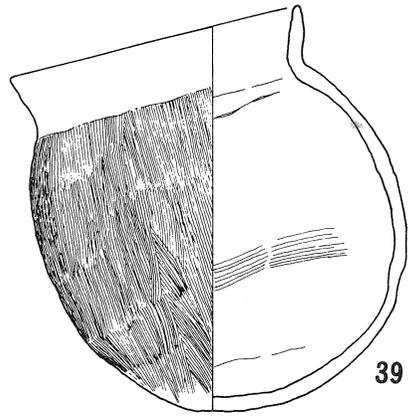
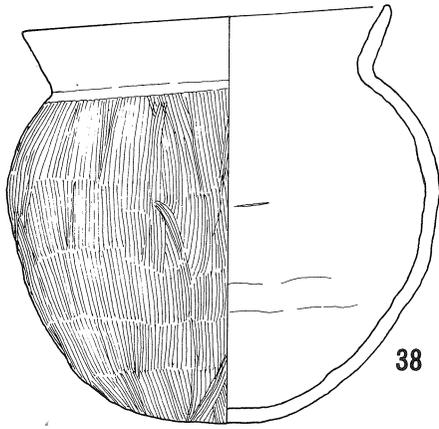


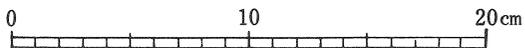
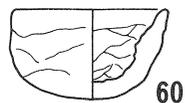
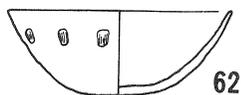
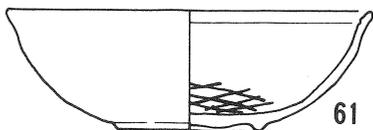
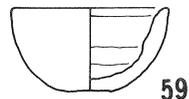
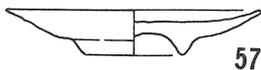
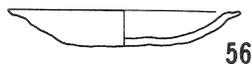
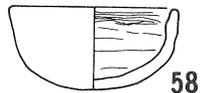
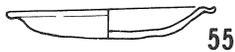
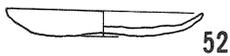
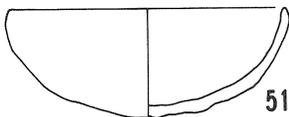
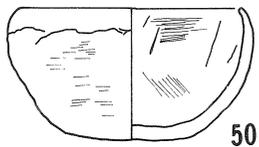
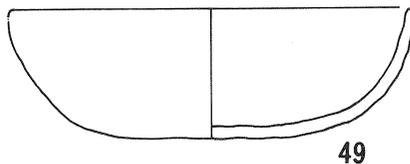
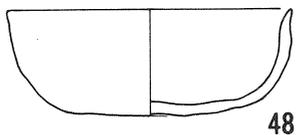
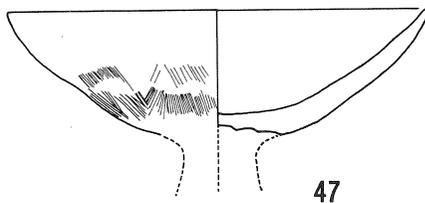
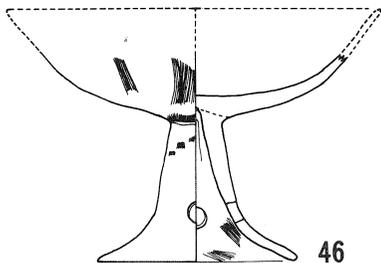
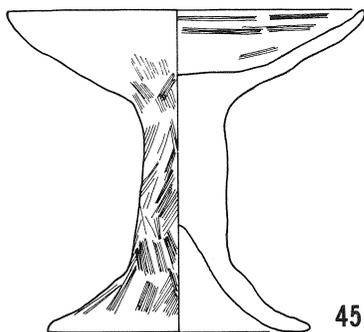
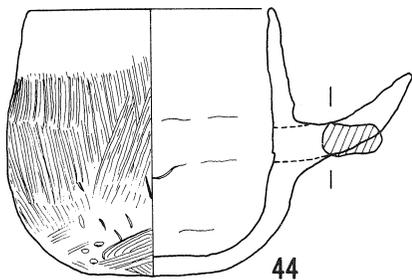


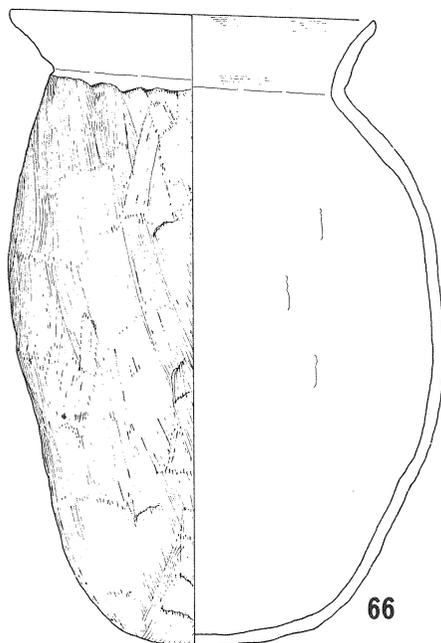
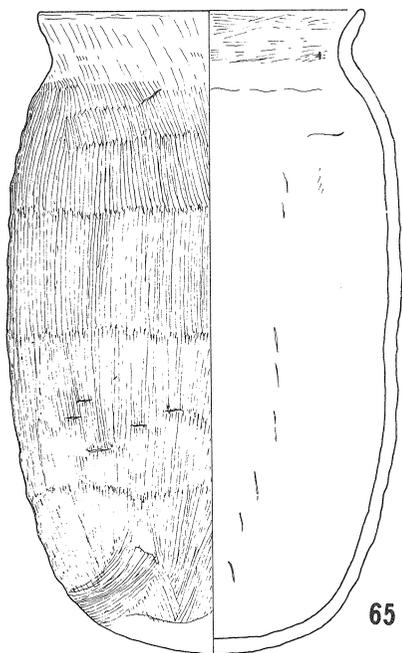
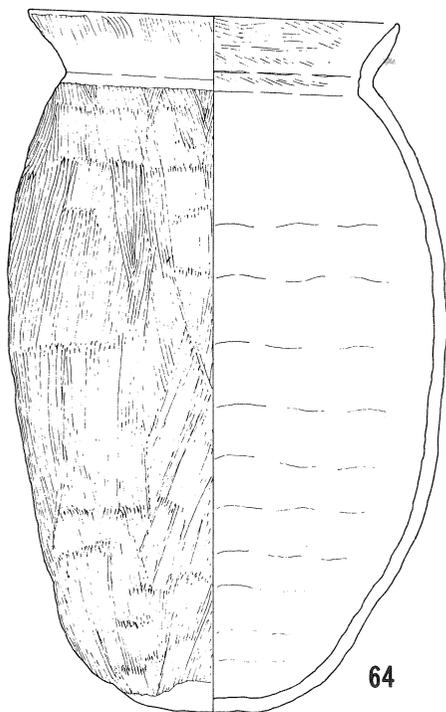
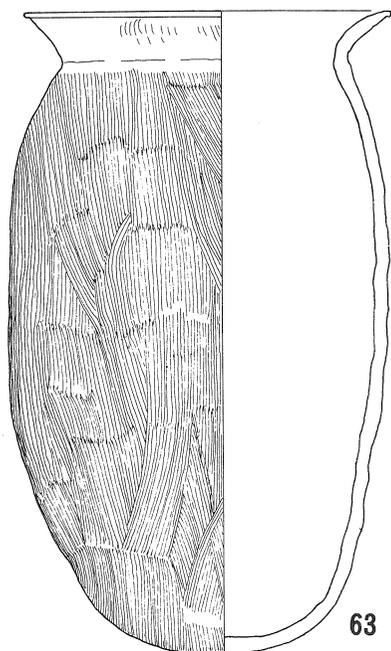




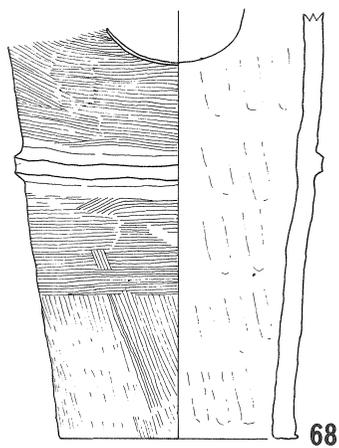
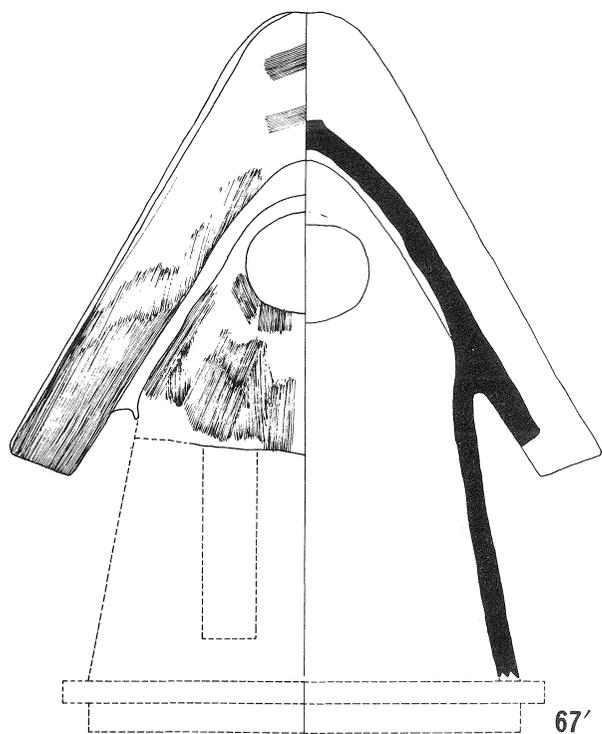
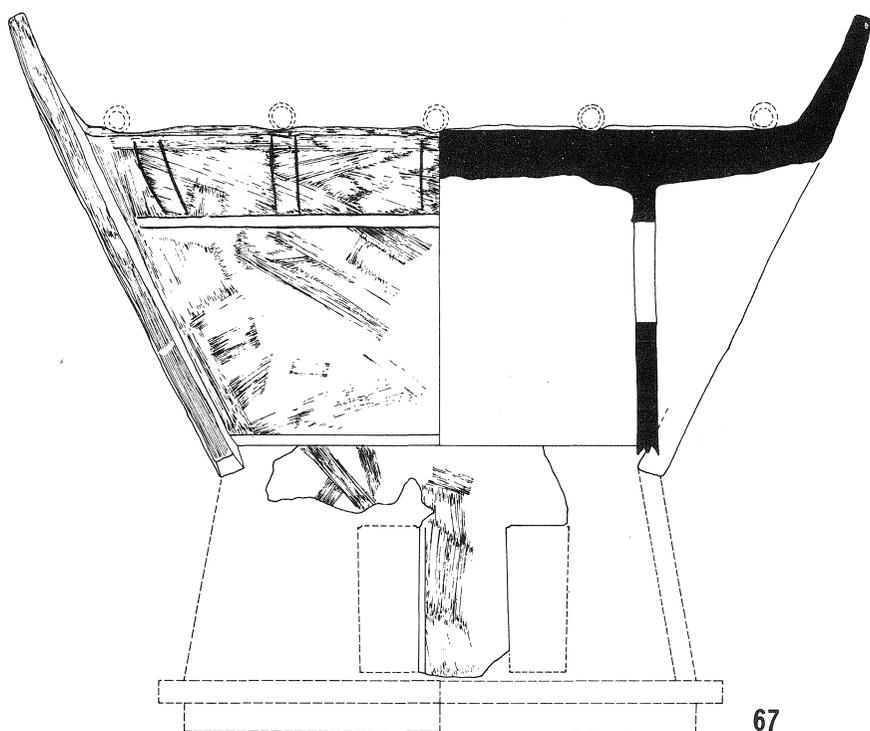




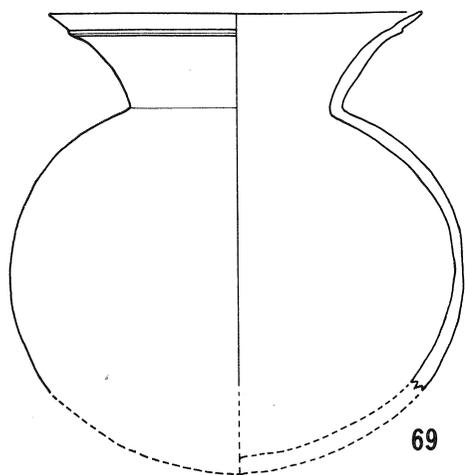




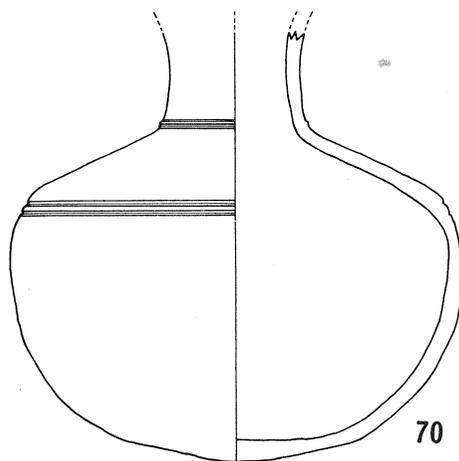
0 10 20cm



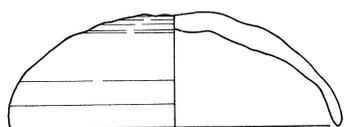
0 10 20cm



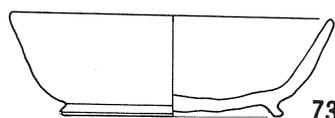
69



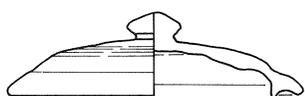
70



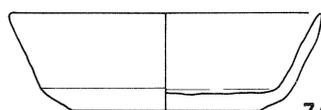
71



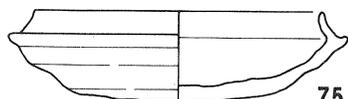
73



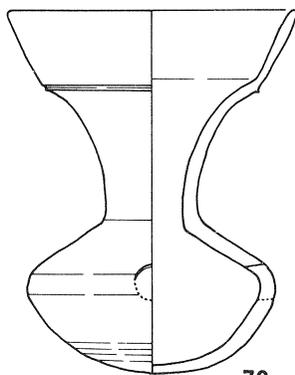
72



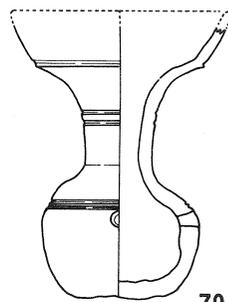
74



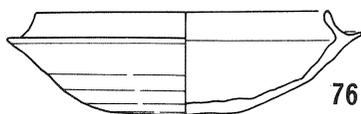
75



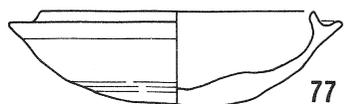
78



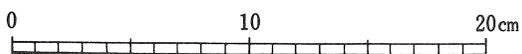
79



76



77





第2次調査地区調査前全景（南より）



第2次調査地区調査前全景（北より）



第2次調査地区終了全景



1号竖穴式住居跡遺物出土状況



甕出土状況



甕出土状況



小型丸底土器出土状況



第3次調査地区調査前全景（北より）



第3次調査地区調査前全景（南より）



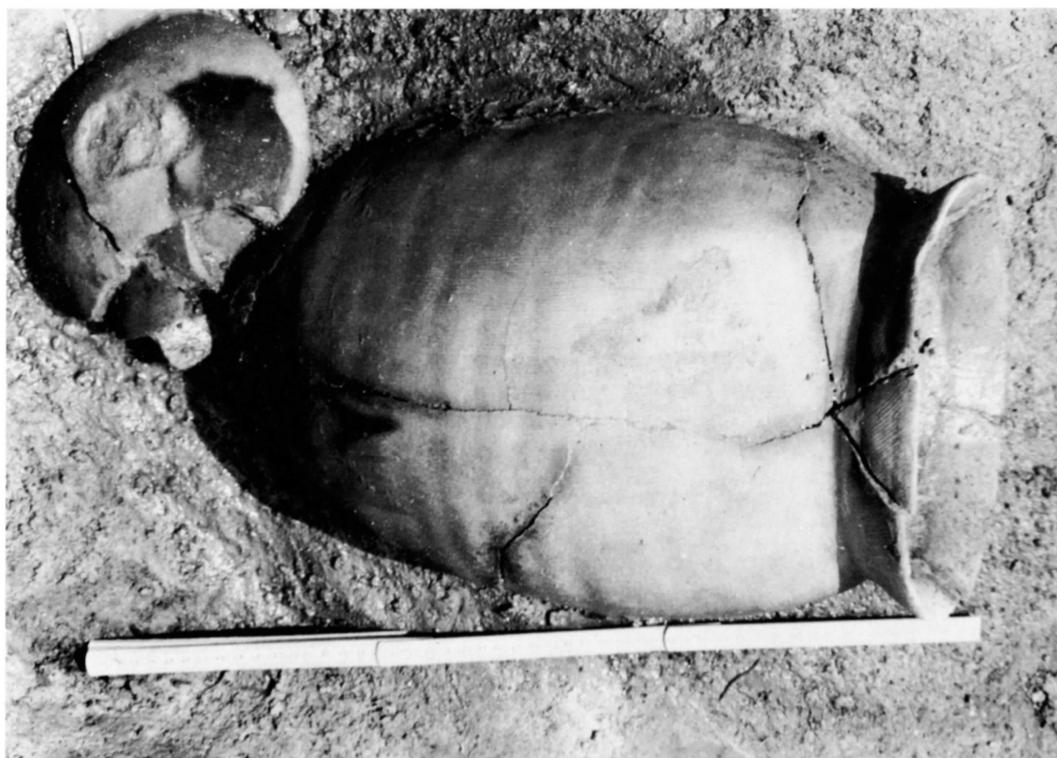
Pit群および小溝群（北より）



大溝 A (南西より)



大溝 B (南より)



大溝B 大甕出土状況



大溝B 大甕出土状況



大溝B 家形はにわ出土状況



大溝B 円筒はにわ出土状況



大溝B 遺物出土状況



大溝B 遺物出土状況



大溝B 遺物出土状況



大溝B 遺物出土状況



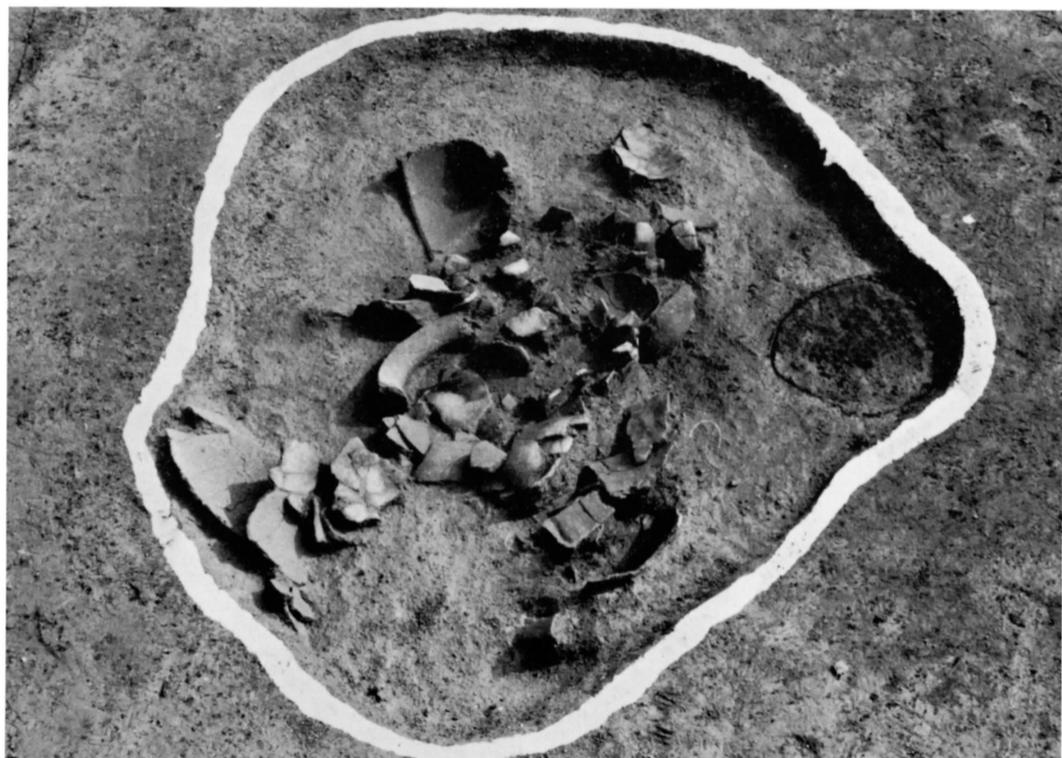
井戸 1 遺物出土状況



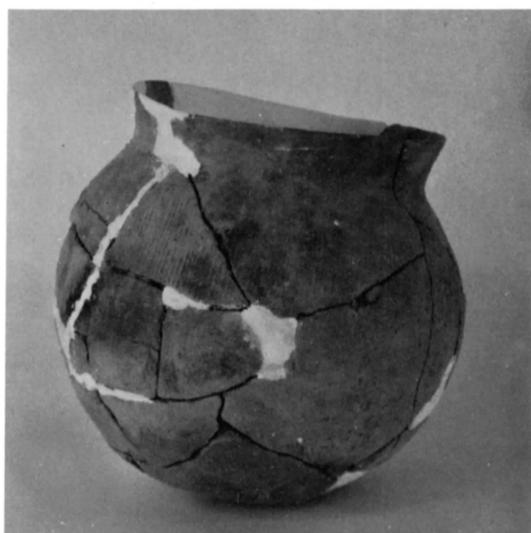
大甕出土状況



土壙状遺構遺物出土状況

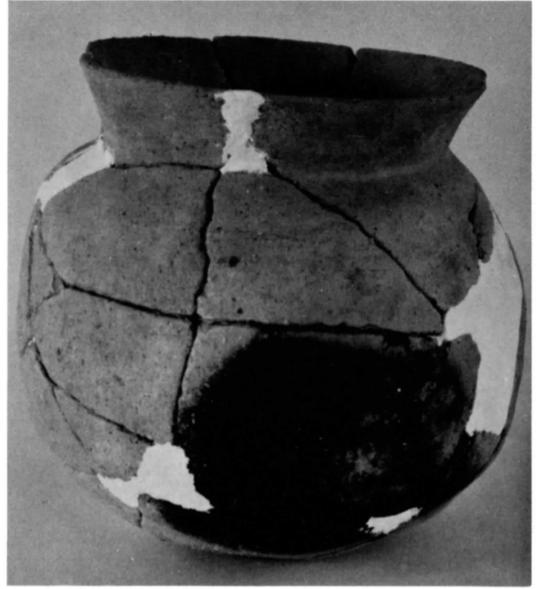


土壙状遺構遺物出土状況





7



8

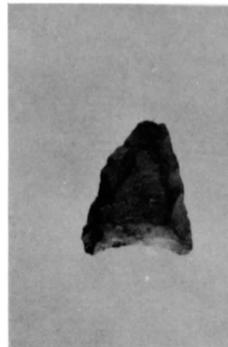


9

第2次調査出土石鏃



80



81





10



11



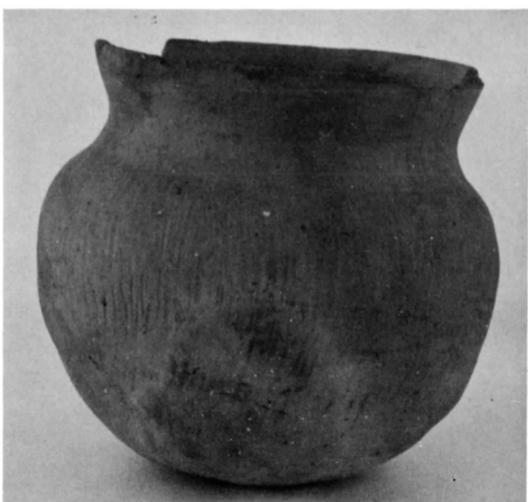
12



13



14



15



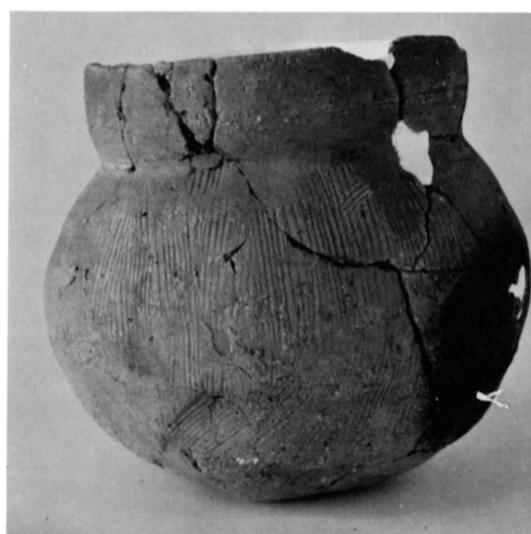
16



17



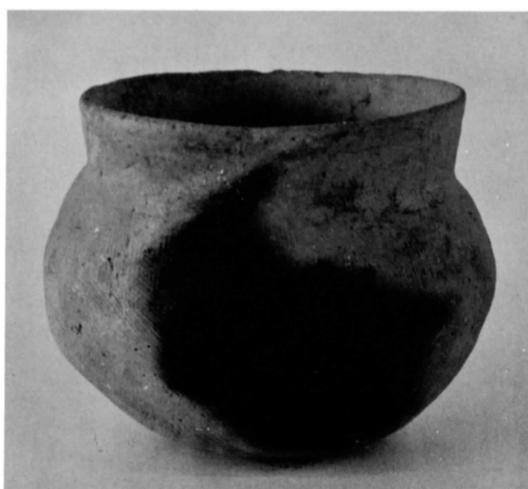
18



19



20



21



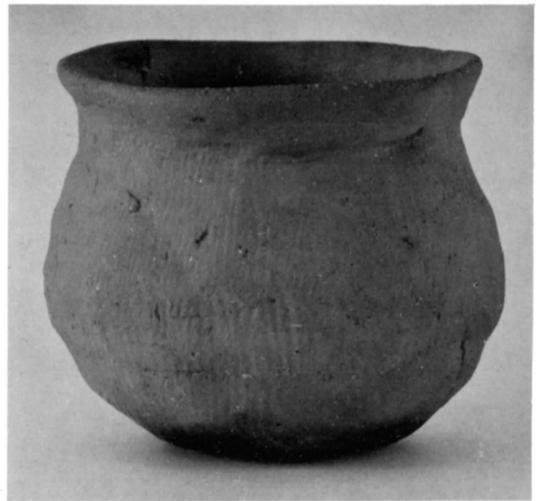
22



23



24



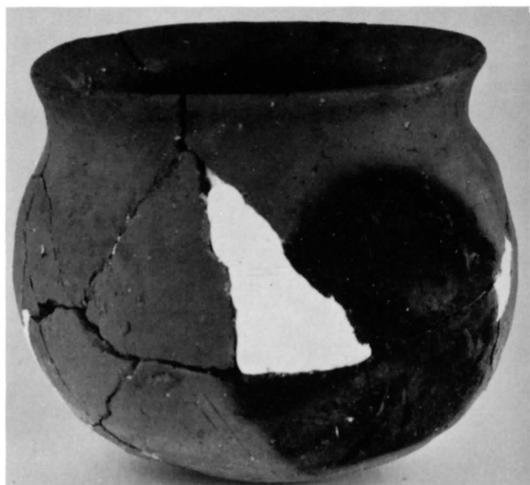
25



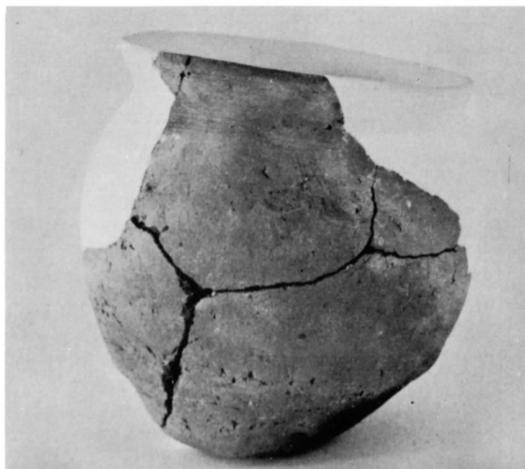
26



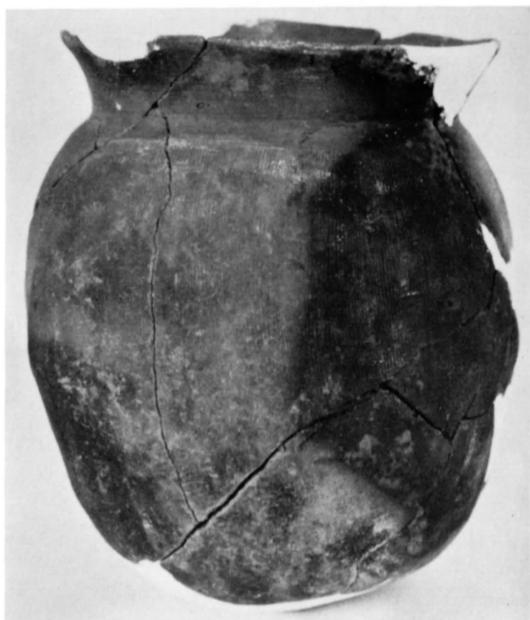
27



28



29



30



31



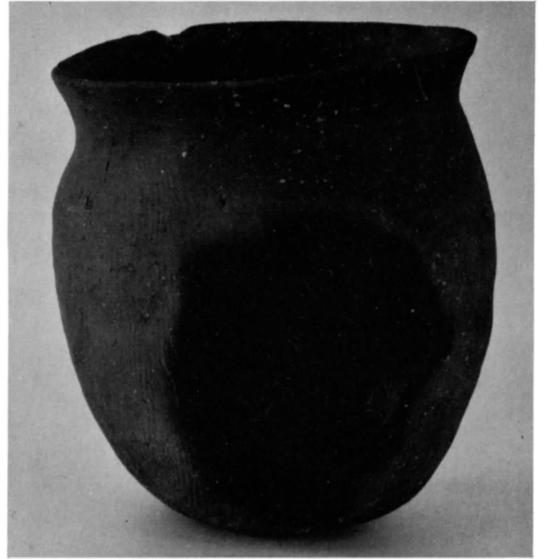
32



33



34



35



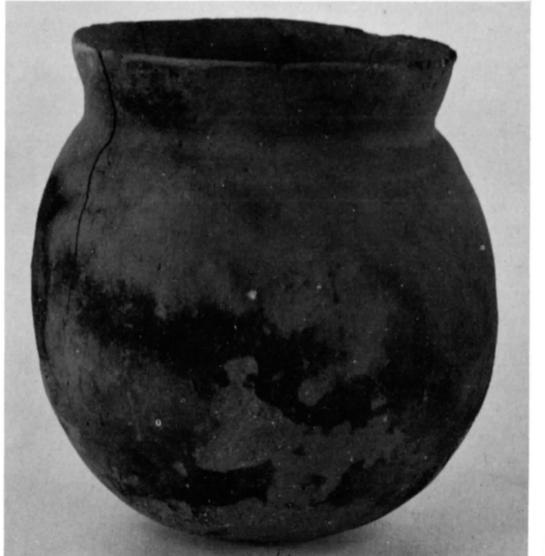
36



37



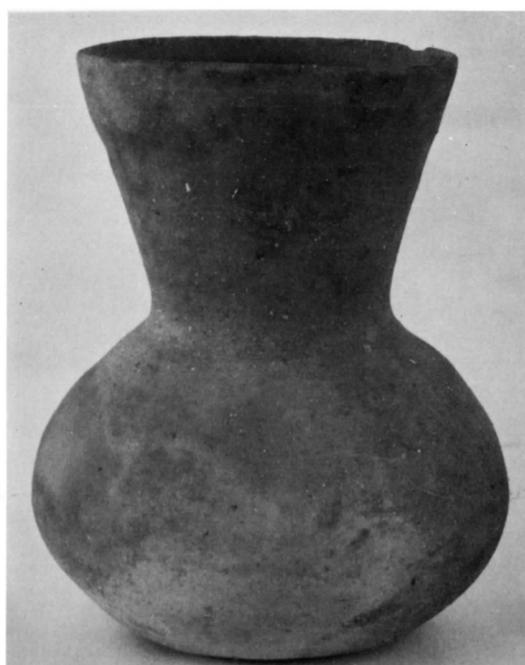
38



39



40



41



42



43



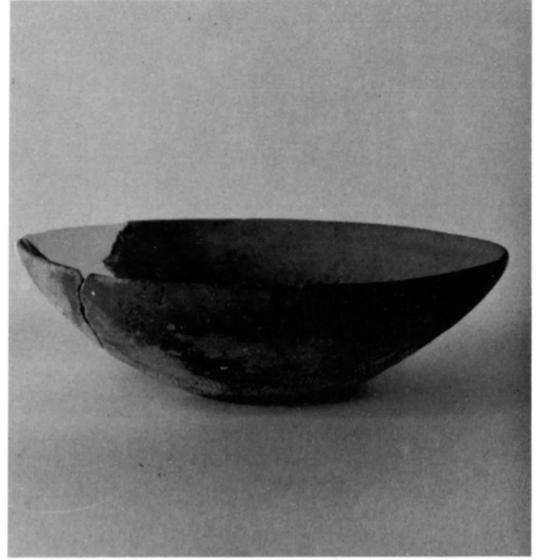
44



45



46



47



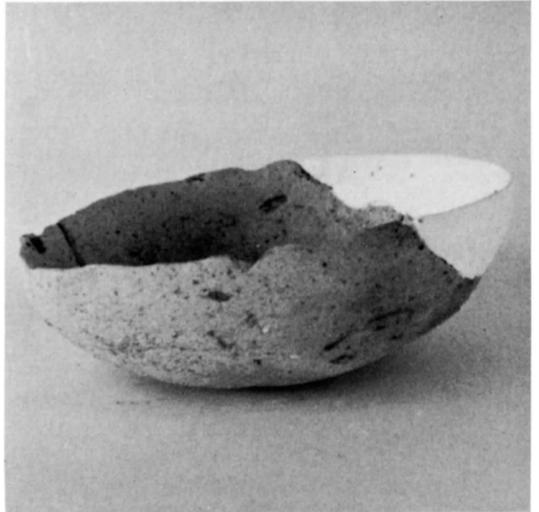
48



49



50



51

52



53



54



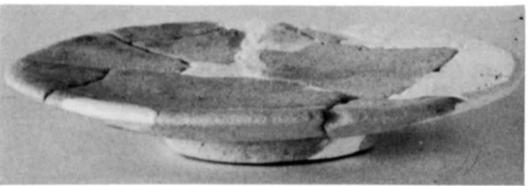
55



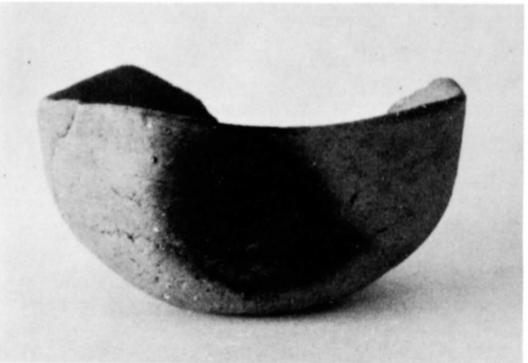
56



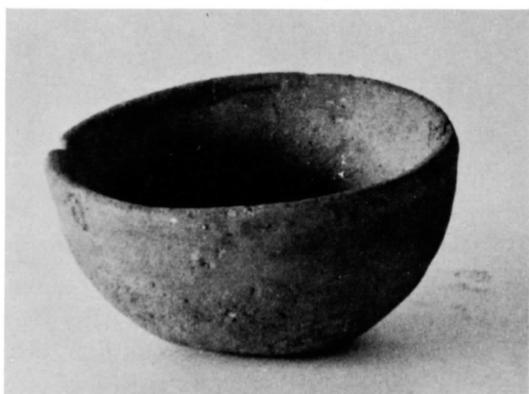
57



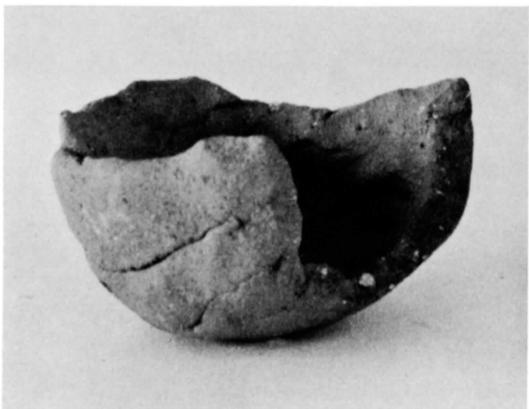
58



59



60



61

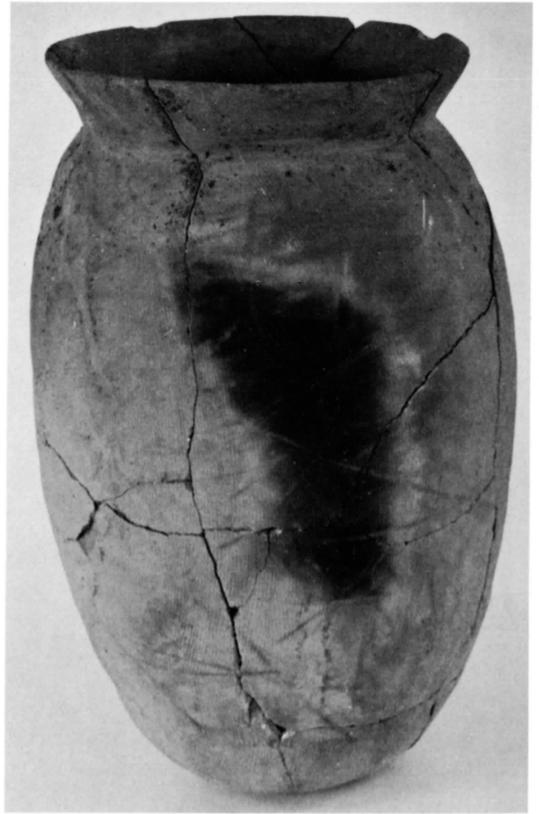


62

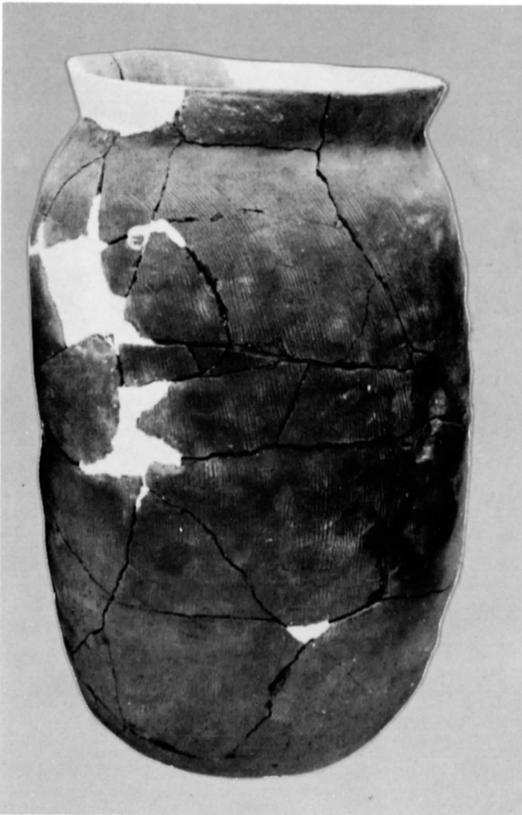




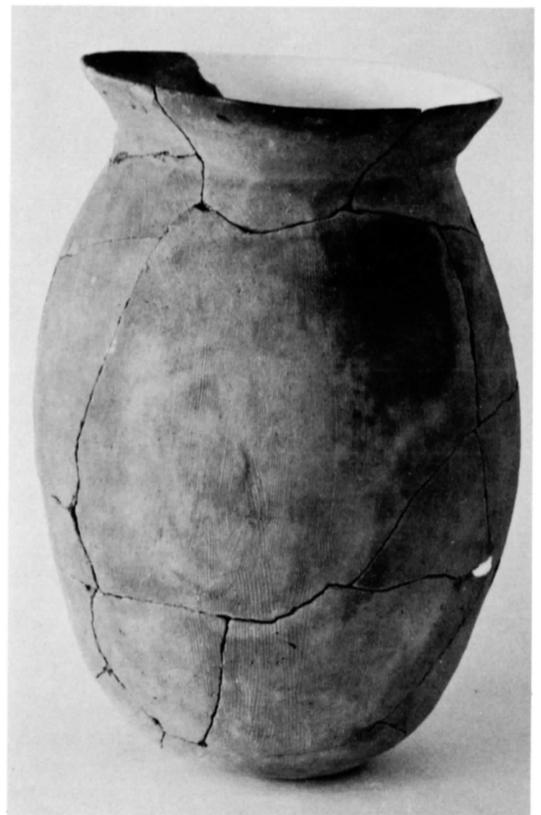
63



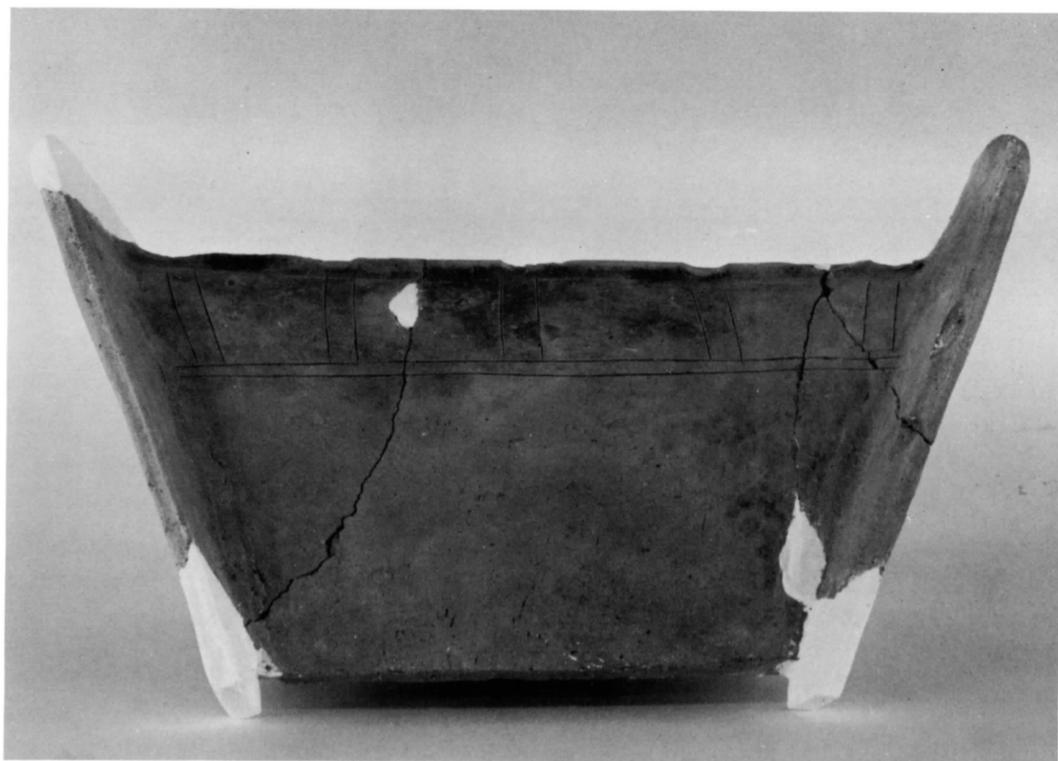
64



65



66



67



67'



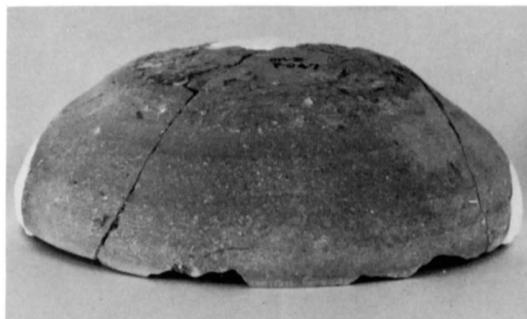
68



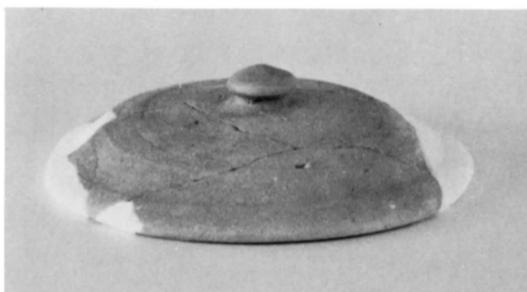
69



70



71



72



73



74



75



76



77

78



79





88



88'

尖頭器



82



83

石 鏃



86

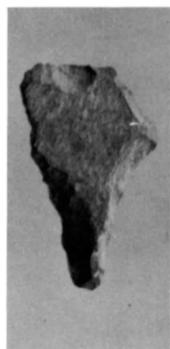


86'

磨製石斧



84



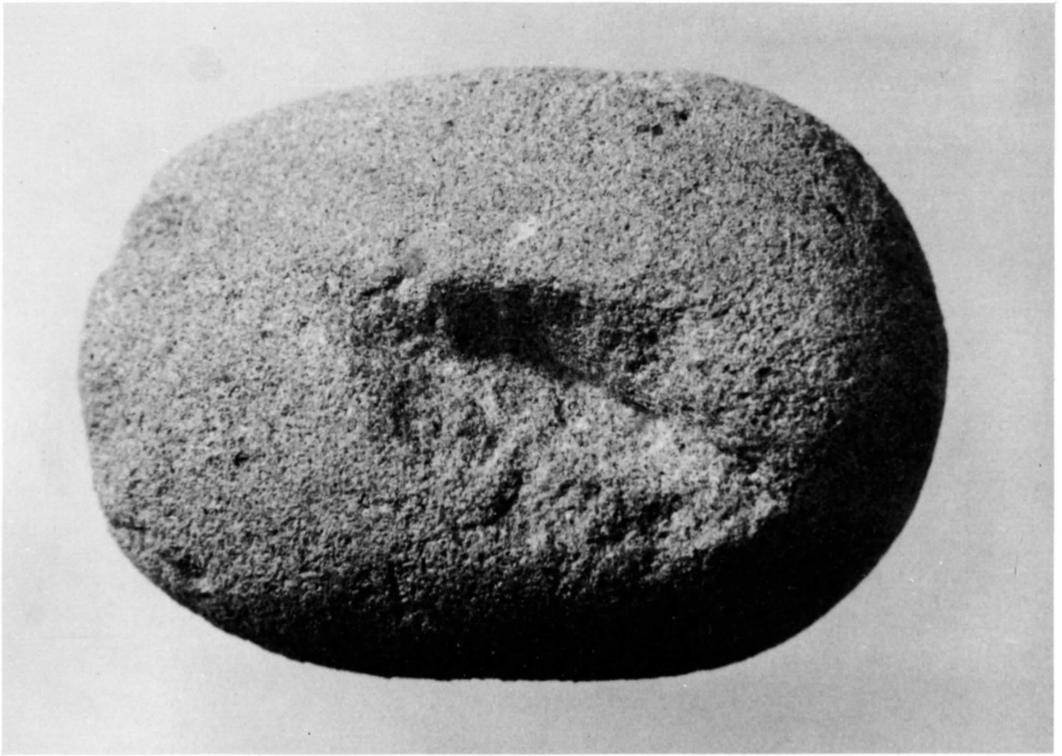
石錐



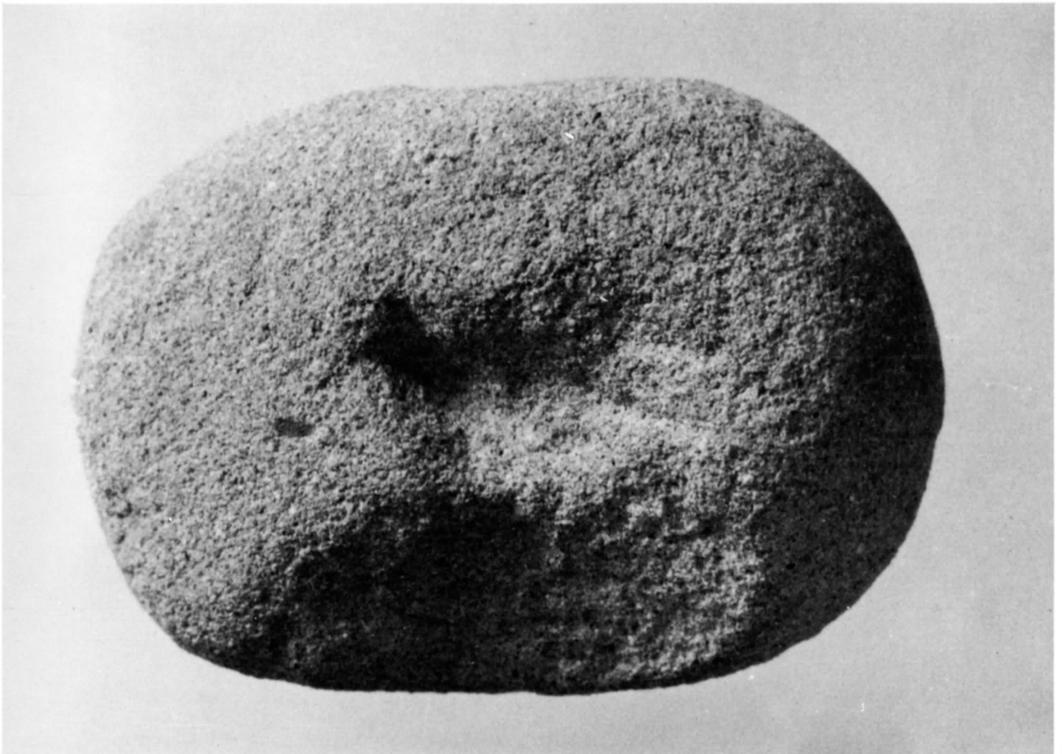
85



石鏃



87



87'

たたき石

岡山南遺跡発掘調査概要・I

昭和 51 年 12 月 発行

編集 四條畷市教育委員会

発行 四條畷市教育委員会

四條畷市中野 6 5 3

印刷 田中印刷 K・K

四條畷市岡山 3 9 7

四條畷市教育委員会